

令和5年度 全国学力・学習状況調査
調査結果報告書

岩見沢市教育委員会（岩見沢市立教育研究所）
令和5年(2023年)12月14日

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、市内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 報告書の内容

文部科学省では調査結果の解釈等に関する留意事項で「本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である」と述べている。この点を十分に踏まえた上、本報告書では岩見沢市の調査結果からみた学力の全体的な傾向及び児童生徒質問紙等の特徴的な事項並びに指導改善の取組等について記載している。

3 調査の対象

小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校）〕

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

(3) 学校質問紙調査

- ・全国学力・学習状況調査の実施：令和5年4月18日（火）
- ・調査結果の分析：令和5年7月31日（月）～11月2日（木）
- ・報告書の完成：令和5年11月2日

| 校種 | 学校総数（校） | | | 参加学校数（校） | | | 児童生徒数（人） | | |
|-----|----------|---------|--------|----------|---------|--------|----------|---------|-----------|
| | 岩見沢市(公立) | 北海道(公立) | 全国(公立) | 岩見沢市(公立) | 北海道(公立) | 全国(公立) | 岩見沢市(公立) | 北海道(公立) | 全国(公立) |
| 小学校 | 14 | 951 | 18,672 | 14 | 947 | 18,641 | 541 | 35,657 | 964,350 |
| 中学校 | 9 | 574 | 9,408 | 9 | 571 | 9,369 | 518 | 34,259 | 893,114 |
| 合計 | 23 | 1,525 | 28,080 | 23 | 1,518 | 28,010 | 1,059 | 69,916 | 1,857,464 |

II 教科に関する調査結果の概要

1 岩見沢市の児童生徒の学力の状況

○平均正答率との比較

- ・小学校は、国語は全国平均よりやや低く、算数はほぼ同様。（全国との差が国語は3.2ポイント、算数は1.5ポイント）
- ・中学校は、国語・英語・数学については、全国平均とほぼ同様。（数学は上回り、全国との差が国語は1.1ポイント、英語は1.3ポイント）

2 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率

(%)

| 児童生徒 | 項目 | 国語 | | 算数・数学 | | 英語 | |
|------------|---------|------|------|-------|------|------|------|
| | | R5 | R4 | R5 | R4 | R5 | R1 |
| 小学校 6年生 | 岩見沢市 | 64 | 66 | 61 | 63 | | |
| | 北海道(公立) | 66 | 64 | 61 | 61 | | |
| | 全国(公立) | 67.2 | 65.6 | 62.5 | 63.2 | | |
| 中学校 3年生 | 岩見沢市 | 69 | 69 | 52 | 51 | 45 | 55 |
| | 北海道(公立) | 69 | 69 | 49 | 49 | 44 | 54 |
| | 全国(公立) | 69.8 | 69.0 | 51.0 | 51.4 | 45.6 | 56.0 |

※岩見沢市と北海道の各教科平均正答率については、国から提供された整数値で示している。

3 全国平均正答率を100とした場合の岩見沢市・北海道の数値

(%)

| 児童生徒 | 項目 | 国語 | | 算数・数学 | | 英語 | |
|------------|---------|------|-----|-------|-----|------|-----|
| | | R5 | R4 | R5 | R4 | R5 | R1 |
| 小学校 6年生 | 岩見沢市 | 95.2 | 101 | 97.6 | 100 | | |
| | 北海道(公立) | 98.2 | 98 | 97.6 | 97 | | |
| | 全国(公立) | 100 | 100 | 100 | 100 | | |
| 中学校 3年生 | 岩見沢市 | 98.9 | 100 | 102.0 | 99 | 98.7 | 98 |
| | 北海道(公立) | 98.9 | 100 | 96.1 | 95 | 96.5 | 96 |
| | 全国(公立) | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

Ⅲ 教科に関する調査結果

1 小学校国語

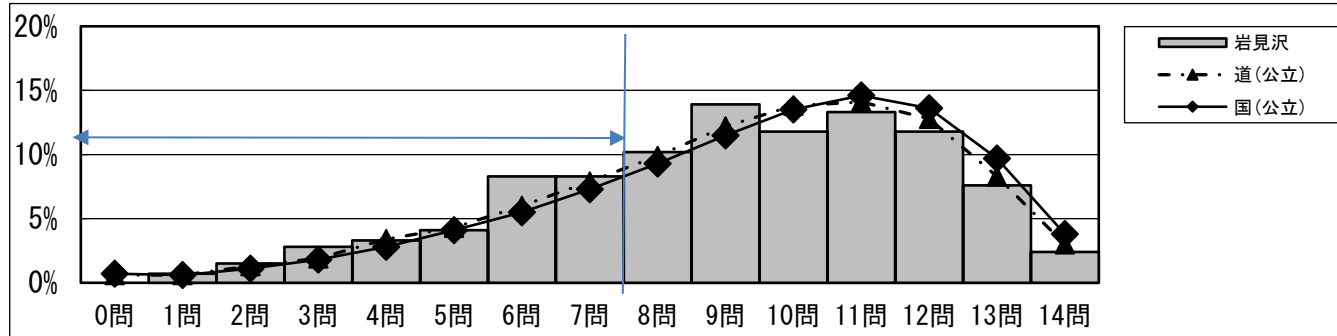
【概要】

- 平均正答率は64【64.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.9ポイント

| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|---------|---------|----------|----------|------|------|
| 岩見沢 | 541 | 9.0 / 14 | 64 | 9.0 | 2.9 |
| 北海道(公立) | 35,645 | 9.2 / 14 | 66 | 10.0 | 2.9 |
| 全国(公立) | 964,177 | 9.4 / 14 | 67.2 | 10.0 | 2.9 |

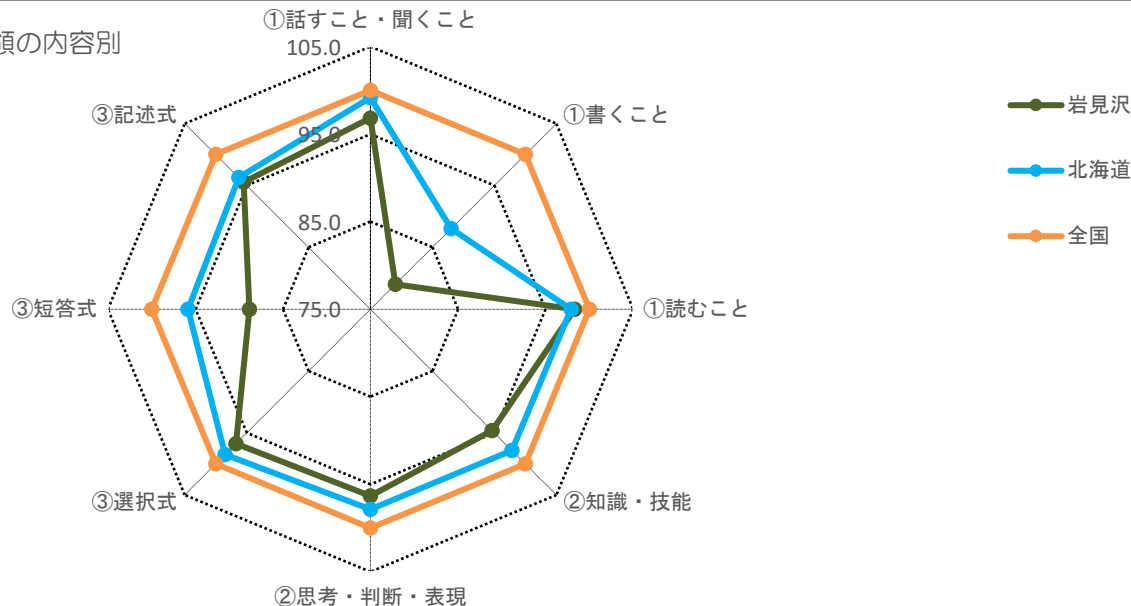
■全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

- 割合：岩見沢 29.0%
：全国 23.9%
- 正答数：14問中7問以下
- 全国との差：5.1ポイント多い



正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

学習指導要領の内容別



| 正答数集計値 | | | | |
|--------|-----|-------|-------|-------|
| 正答数 | 児童数 | 割合(%) | | |
| | 岩見沢 | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
| 14問 | 13 | 2.4 | 3.0 | 3.8 |
| 13問 | 41 | 7.6 | 8.3 | 9.7 |
| 12問 | 64 | 11.8 | 12.8 | 13.6 |
| △ 11問 | 72 | 13.3 | 14.1 | 14.6 |
| ◇ 10問 | 64 | 11.8 | 13.8 | 13.5 |
| ◇ 9問 | 75 | 13.9 | 12.2 | 11.5 |
| ▽ 8問 | 55 | 10.2 | 9.9 | 9.3 |
| ▽ 7問 | 45 | 8.3 | 7.9 | 7.3 |
| 6問 | 45 | 8.3 | 6.0 | 5.5 |
| 5問 | 22 | 4.1 | 4.3 | 4.1 |
| 4問 | 18 | 3.3 | 3.4 | 2.8 |
| 3問 | 15 | 2.8 | 1.9 | 1.8 |
| 2問 | 8 | 1.5 | 1.3 | 1.1 |
| 1問 | 4 | 0.7 | 0.6 | 0.6 |
| 0問 | 0 | 0.0 | 0.6 | 0.7 |

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

| | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
|---------|-------|-------|-------|
| △ 第3四分位 | 11.0問 | 11.0問 | 12.0問 |
| ◇ 第2四分位 | 9.0問 | 10.0問 | 10.0問 |
| ▽ 第1四分位 | 7.0問 | 7.0問 | 8.0問 |

△ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については岩見沢市は全国と比べ、第1四分位と第2四分位の正答数が1問ずつ少ない。

児童数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」では少なく(-5.3ポイント)、「正答数の少ない層」では多い(+5.1ポイント)。

(1) 小学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

〔思考力、判断力、表現力等〕

【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、96.8%で、3.2ポイント下回っている。令和4年度は95.2%であり、上昇傾向にはある。
- ・問題番号では、3一(1)、3一(2)、3二が該当し、3問とも全国を下回っている。
- ◆「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことに課題がある。〔3二〕

【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、79.0%で、21.0ポイント下回っている。令和4年度は105.2%であり、大きく下回っている。
- ・問題番号では、1二の1問が該当している。
- ◆「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題がある。〔1二〕

【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、98.3%で、1.7ポイント下回っている。令和4年度は98.8%であり、下降傾向にある。
- ・問題番号では、2一、2二、2四が該当し、3問とも全国を下回っている。
- ◆「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことに課題がある。〔2四〕

【知識及び技能】 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、99.0%で、1.0ポイント下回っている。令和4年度は102.3%であり、下降した。
- ・問題番号では、1三(1)ア、1三(1)ウ、1三(2)イ、1四、3三が該当し、1三(2)イと1四は全国を上回り、残り3問は全て下回っている。
- ◇「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」とことと「文章の種類とその特徴について理解する」ことはできている。〔1三(2)イ、1四〕
- ◆「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことに課題がある。〔1三(1)ア〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- ・本市では、全国と比べ、全ての領域で正答率が低く、特に「B書くこと」領域の1二の「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに大きな課題が見られます。
- ・そのため、例えば、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動では、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫するよう指導する必要があります。その際、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。このことにより、子どもたちは本問のような問題に対して具体的なイメージをもって解答することができます。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切です。
- ・全国的に正答率がもっとも低かった問題も、「B書くこと」領域の1二で、岩見沢市と同様の課題が見られます。

(2) 小学校国語 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率(%) | | | 無解答率(%) | | |
|------------|--|---|--------|--------------|--------------|---------|--------------|--------------|
| | | | 岩見沢市 | (公道) (公立) | (公道) (全国) | 岩見沢市 | (公道) (公立) | (公道) (全国) |
| 1一 | 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する | 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる | 61.0 | 62.5 | 64.7 | 0.6 | 1.8 | 1.8 |
| 1二 | 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く | 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる | 21.1 | 23.5 | 26.7 | 7.8 | 7.7 | 7.1 |
| 1三 (1)ア | 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい) | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる | 45.7 | 51.6 | 52.8 | 4.1 | 4.9 | 4.8 |
| 1三 (1)ウ | 【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん) | | 65.8 | 68.6 | 72.6 | 6.3 | 7.6 | 6.7 |
| 1三 (2)イ | 【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する(くらべて) | 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる | 95.0 | 92.7 | 93.1 | 0.2 | 0.9 | 1.0 |
| 1四 | 【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する | 文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる | 82.1 | 79.7 | 79.8 | 0.7 | 1.6 | 2.0 |
| 2一 | 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する | 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる | 89.3 | 88.9 | 90.0 | 1.1 | 1.1 | 1.2 |
| 2二 | 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる | 64.9 | 66.3 | 67.4 | 1.1 | 1.3 | 1.4 |
| 2三 | 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものととして適切なものを選択する | 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる | 55.6 | 61.0 | 62.0 | 1.1 | 1.4 | 1.6 |
| 2四 | 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができることをまとめて書く | 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる | 55.8 | 53.9 | 56.2 | 8.7 | 9.0 | 8.5 |
| 3一 (1) | 【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する | 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる | 70.1 | 72.6 | 73.6 | 4.1 | 3.4 | 3.7 |
| 3一 (2) | 【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する | | 71.3 | 73.2 | 74.0 | 4.6 | 3.6 | 4.1 |
| 3二 | 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く | 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる | 69.5 | 70.2 | 70.2 | 15.5 | 14.4 | 14.3 |
| 3三 | 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する | 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる | 51.6 | 55.7 | 57.6 | 9.6 | 8.7 | 9.5 |

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

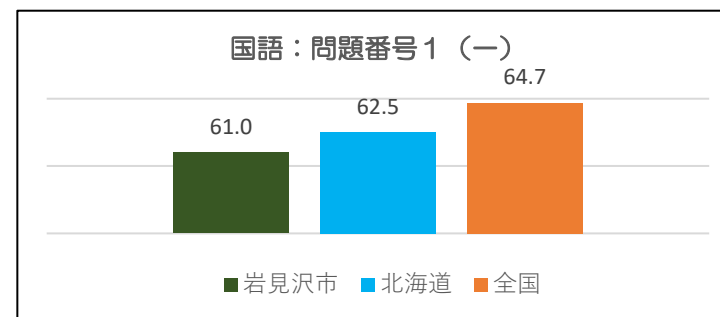
(3) 小学校国語 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

【米作りについて解説する文章を書く】

問題番号1 (一)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 61.0 | 62.5 | 64.7 | -3.7 |



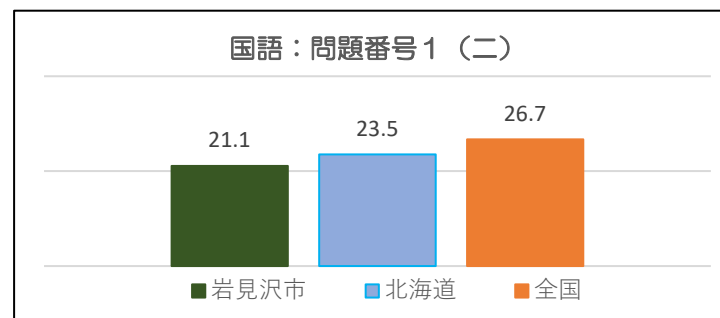
(課題)

全国と比べ、「原因と結果など情報と情報との関係」について理解できていない児童が多い。授業場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだりするなど、情報と情報の関係を視覚的に捉えることができるような指導が効果的です。

問題番号1 (二)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く |
| 出題の趣旨 | 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 21.1 | 23.5 | 26.7 | -5.6 |



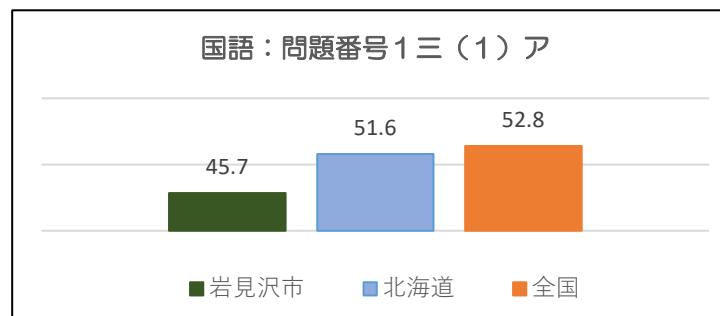
(課題)

全国と比べ、「グラフとカードの両方から分かることを関係付けて捉えること」ができなかった児童が多い。学習指導に当たっては、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるような指導が必要です。

問題番号1三(1)ア

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい) |
| 出題の趣旨 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 45.7 | 51.6 | 52.8 | -7.1 |



(課題)

全国と比べ、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」ができなかった児童が多い。学習指導では漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう指導する必要がある、特に5・6年生では同音異義語に注意するよう指導する必要があります。

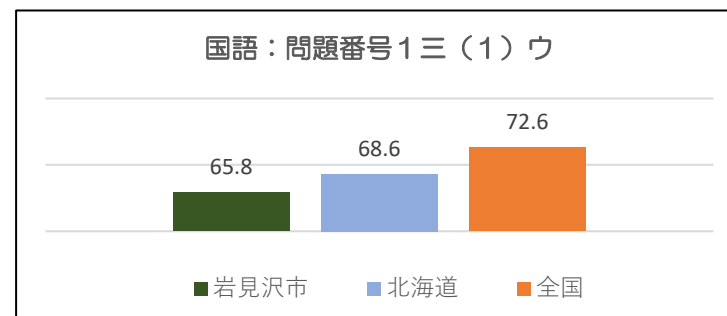
問題番号1三(1)ウ

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん) |
| 出題の趣旨 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 65.8 | 68.6 | 72.6 | -6.8 |

(課題)

全国と比べ、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」ができなかった児童が多い。学習指導では漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう指導する必要があり、特に5・6年生では同音異義語に注意するよう指導する必要があります。



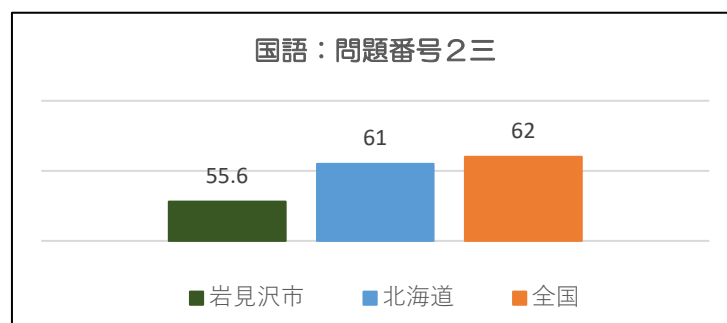
問題番号2三

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|-----|----|------|
| 55.6 | 61 | 62 | -6.4 |

(課題)

全国と比べ、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」に課題のある児童が多い。学習指導では、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、自分に合った方法を選ぶことができるように指導する方法も考えられます。



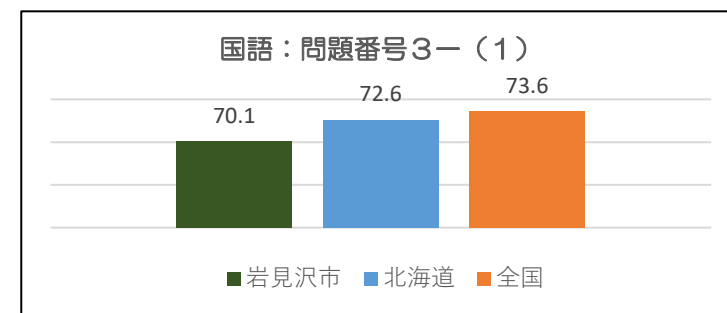
問題番号3一(1)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 【インタビューの様子】の傍線部アのように質問をした理由として適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 70.1 | 72.6 | 73.6 | -3.5 |

(課題)

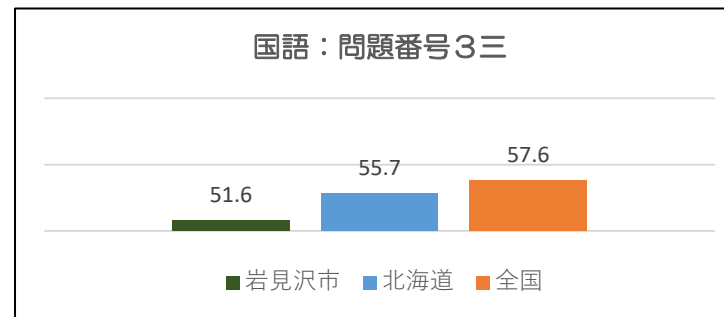
全国的と比べ、「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉える」ことができなかった児童が多い。学習指導に当たっては、目的をもって特定の相手に質問し、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点をさらに質問するなど、必要な情報を聞き出す学習活動の工夫が必要です。



問題番号3三

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる |

| | | | |
|------|------|------|------|
| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
| 51.6 | 55.7 | 57.6 | -6.0 |



(課題)

全国と比べ、「相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと」について理解できていない児童が多い。学習指導に当たっては、日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切です。

3ポイント以上差のある問題の領域等(7問)

| 問題番号 | 学習指導要領の内容(領域) | 差 | 【考察】 全国と比べて3ポイント以上差のある問題について、学習指導要領の内容別に見ると、【知識及び技能】を問う問題が5問、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が2問となっている。 どちらかという、知識及び技能の定着に課題があると考えられる。 また、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題2問のうち、(B 書くこと)が大きく下回った。 このことから、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。 一方、書くこと領域の経年比較を見ると全国平均を下回ったのは今年度が初めてである。 |
|--------|-------------------------|------|--|
| 1一 | 知識及び技能(情報の使い方に関する事項) | -3.7 | |
| 1二 | 思考力・判断力・表現力等(B 書くこと) | -5.6 | |
| 1三(1)ア | 知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項) | -7.1 | |
| 1三(1)ウ | 知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項) | -6.8 | |
| 2三 | 知識及び技能(情報の使い方に関する事項) | -6.4 | |
| 3一(1) | 思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと) | -3.5 | |
| 3三 | 知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項) | -6.0 | |
| 内容別 | 知識及び技能 | 5問 | |
| | 思考力・判断力・表現力等 | 2問 | |

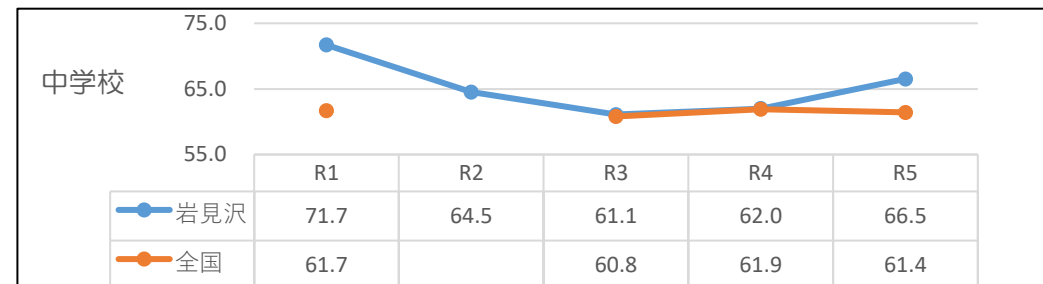
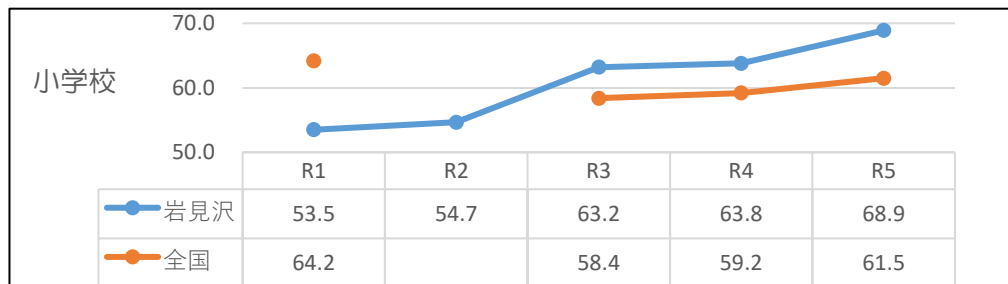
小学校国語（思考力・判断力・表現力等）（書くこと領域）岩見沢の推移



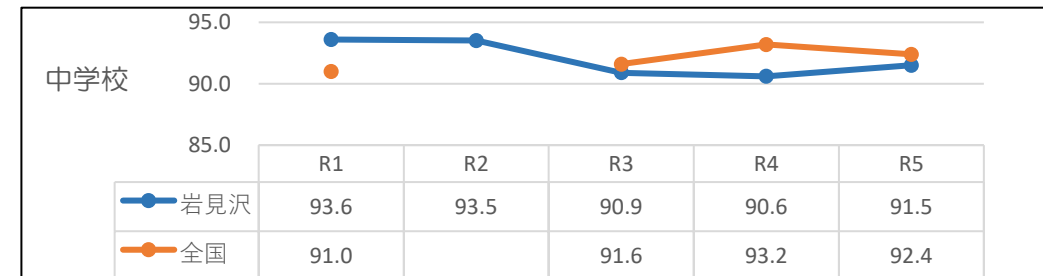
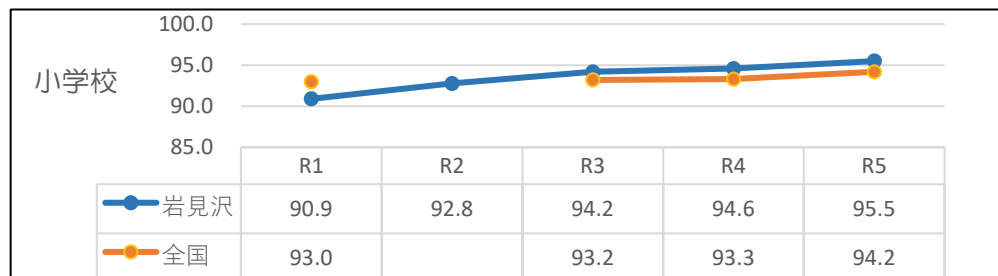
(4) 小・中学校国語 児童生徒質問紙調査

- 小・中学校国語については多くの設問において全国と同様の傾向が見られるが、岩見沢市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。
- (43)「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国を上回っている。
- (45)「国語の授業の内容よく分かります」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国を上回っている。
- (46)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国を上回っている。

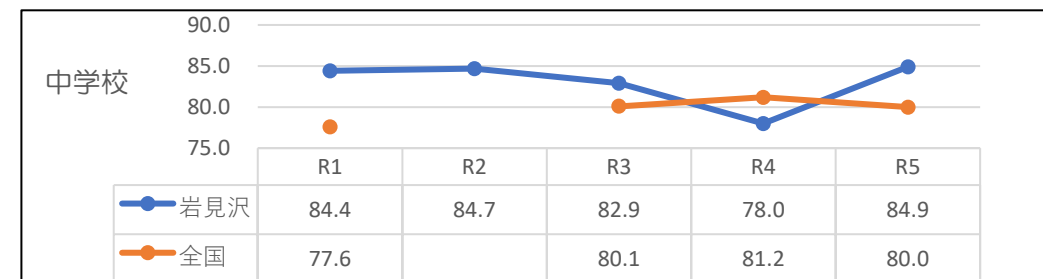
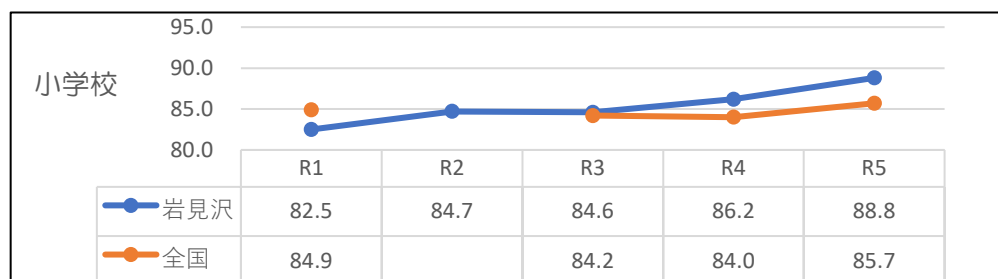
(43)国語の勉強は好きですか



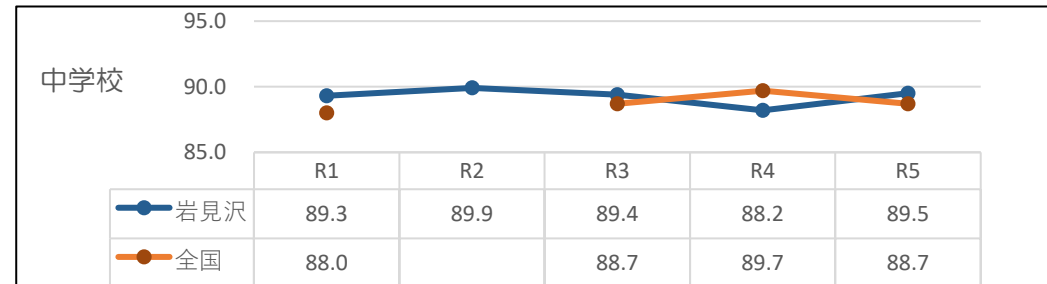
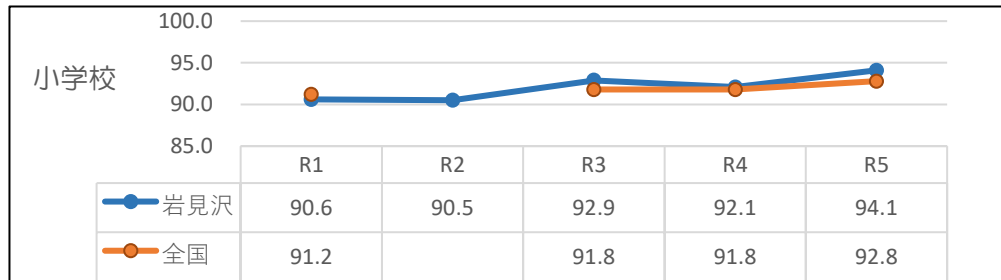
(44)国語の勉強は大切だと思いますか



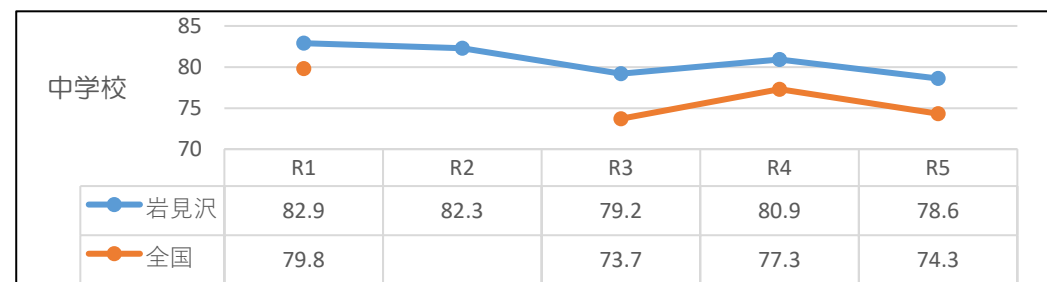
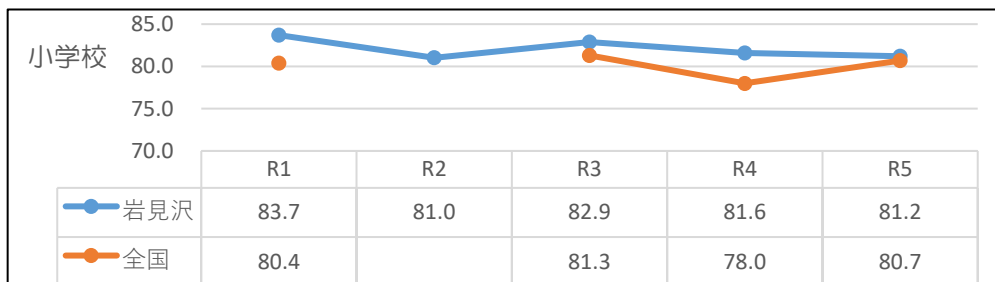
(45)国語の授業の内容はよく分かりますか



(46) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



(国1) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか



Ⅲ 教科に関する調査

2 小学校算数

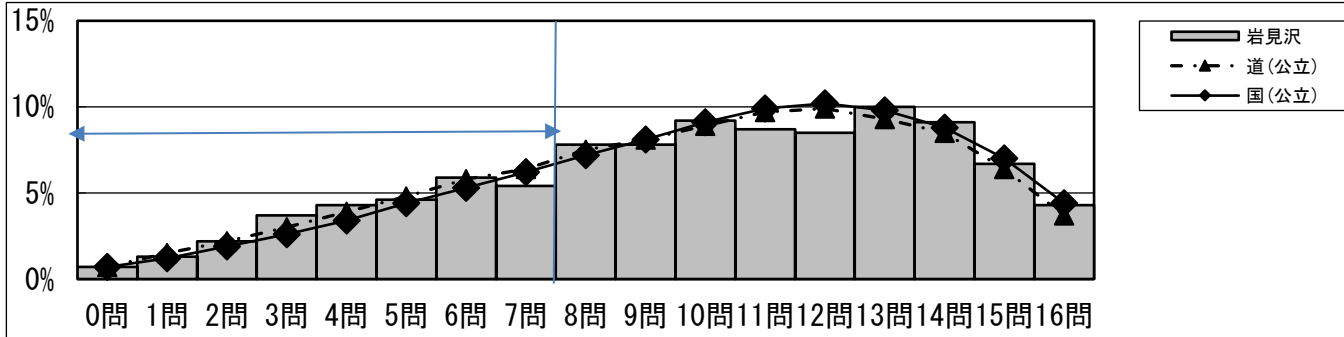
【概要】

- 平均正答率は61【61.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.2ポイント

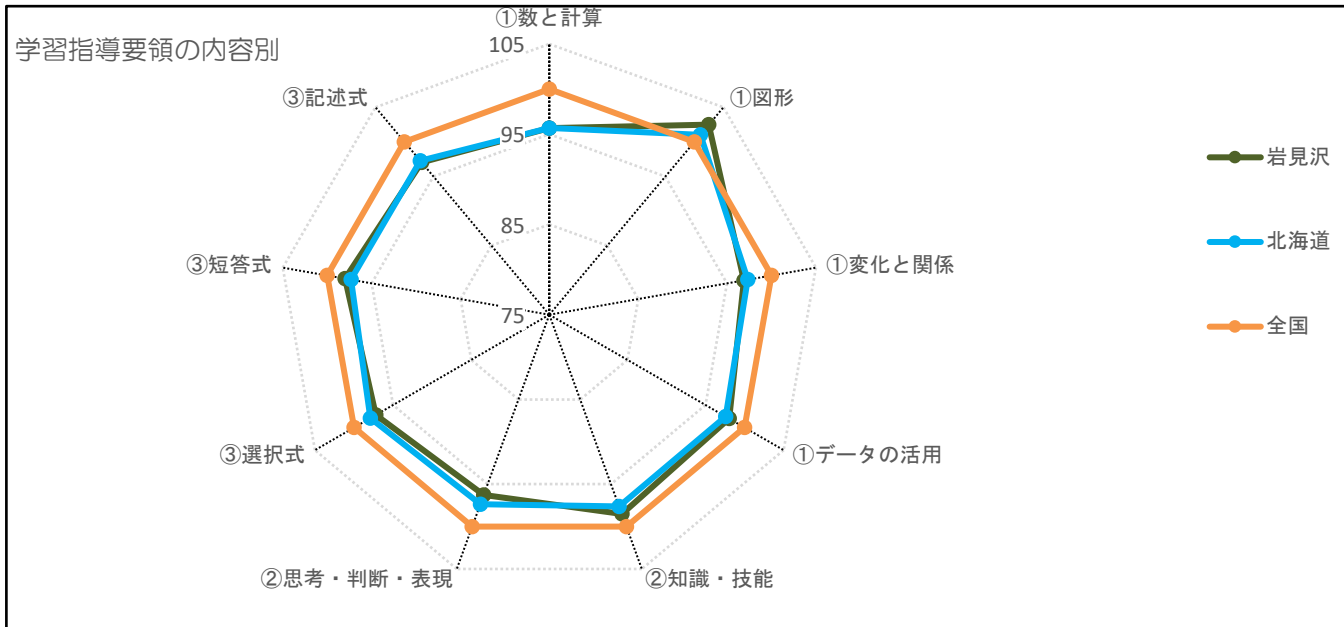
| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|---------|---------|-----------|----------|------|------|
| 岩見沢 | 541 | 9.8 / 16 | 61 | 10.0 | 3.9 |
| 北海道(公立) | 35,657 | 9.8 / 16 | 61 | 10.0 | 3.8 |
| 全国(公立) | 964,350 | 10.0 / 16 | 62.5 | 11.0 | 3.8 |

■全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

- ・割合：岩見沢 28.1%
全国 25.7%
- ・正答数：16問中7問以下
- ・全国との差：2.4ポイント多い



正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



| 正答数 | 正答数集計値 | | | |
|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 児童数 | 割合(%) | | |
| | 岩見沢 | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
| 16問 | 23 | 4.3 | 3.7 | 4.4 |
| 15問 | 36 | 6.7 | 6.4 | 7.0 |
| 14問 | 49 | 9.1 | 8.5 | 8.8 |
| △ 13問 | 54 | 10.0 | 9.3 | 9.8 |
| ◇ 12問 | 46 | 8.5 | 9.9 | 10.2 |
| ◇ 11問 | 47 | 8.7 | 9.7 | 9.9 |
| ▽ 10問 | 50 | 9.2 | 8.9 | 9.1 |
| ▽ 9問 | 42 | 7.8 | 8.1 | 8.1 |
| ▽ 8問 | 42 | 7.8 | 7.5 | 7.2 |
| ▽ 7問 | 29 | 5.4 | 6.4 | 6.2 |
| ▽ 6問 | 32 | 5.9 | 5.8 | 5.3 |
| ▽ 5問 | 25 | 4.6 | 4.8 | 4.4 |
| ▽ 4問 | 23 | 4.3 | 3.9 | 3.4 |
| ▽ 3問 | 20 | 3.7 | 3.0 | 2.6 |
| ▽ 2問 | 12 | 2.2 | 2.2 | 1.9 |
| ▽ 1問 | 7 | 1.3 | 1.5 | 1.2 |
| ▽ 0問 | 4 | 0.7 | 0.7 | 0.7 |

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

| | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
|---------|-------|-------|-------|
| △ 第3四分位 | 13.0問 | 13.0問 | 13.0問 |
| ◇ 第2四分位 | 11.0問 | 11.0問 | 11.0問 |
| ▽ 第1四分位 | 8.0問 | 8.0問 | 8.0問 |

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】
四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と同数である。
児童数の割合では、全国と比べ「正答数の多い層」はやや少なく、「正答数の少ない層」はやや多い。

(1) 小学校算数 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【数と計算】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、95.7%で4.3ポイント下回っている。令和4年度は100.4%であり、下降している。
- 問題番号では、1(4)、3(1)、3(2)、3(3)、3(4)、4(2)の6問が該当し、全て全国を下回っている。
- ◆ 「()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」ことに課題がある。〔3(1)〕
- ◆ 「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する」ことに課題がある。〔3(2)〕

【図形】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は102.5%で2.5ポイント上回っている。令和4年度は100%であり、上昇傾向にある。
- 問題番号では、2(1)、2(2)、2(3)、2(4)が該当し、2(1)と2(4)は全国を上回っているが、2(2)、2(3)は全国を下回っている。
- ◇ 「正方形の意味や性質について理解する」ことはできている。〔2(2)〕
- ◆ 「正三角形の意味や性質について、操作を通して理解すること」に課題がある。〔2(3)〕

【変化と関係】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は96.9%で3.1ポイント下回っている。令和4年度は97.7%であり、やや下降している。
- 問題番号では、1(1)、1(2)、1(3)、4(1)が該当し、全て全国を下回っている。特に、1(3)は全国を5.6ポイント下回っている。
- ◇ 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める」ことはできている。〔1(1)〕
- ◆ 「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述する」ことに課題がある。〔1(3)〕
- ◆ 「百分率で表された割合について理解する」ことに課題がある。〔4(1)〕

【データの活用】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は98.0%で2.0ポイント下回っている。令和4年度は98.7%であり、やや下降している。
- 問題番号では、4(2)、4(3)、4(4)が該当し、4(4)は全国を上回っているが、残りは全国を下回っている。特に、4(3)は全国を3.3ポイント下回っている。
- ◇ 「『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る」ことはできている。〔4(2)〕
- ◆ 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述する」ことに課題がある。〔4(3)〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ「図形」は全国を上回っていますが、残りの3領域は全国を下回っています。中でも、1(3)「伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考えたり、知りたい数量の大きさを求める問題」、3(1)「式を用いて数量の関係を表したり、具体的な場面と関連付けて式を読んだりする問題」などに課題が見られます。
- そのため、例えば、ある数量を調べようとするときに、児童自らがそれと関係のある数量を見いだして数量の間にどのような関係が成り立つかを予想したり、数や場面を変えても同じように関係が成り立つのかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つと言えるのかを表現したりする学習活動を繰り返し行う必要があります。また、日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが大切です。
- 全国的に最も正答率が低かった問題は2(4)「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題で、図形の意味や性質を活用して、面積などを比べる際、問題の解決に必要な条件を見だし、適切に使う学習活動が不足していると考えられます。

(2) 小学校算数 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率(%) | | | 無解答率(%) | | |
|------|---|---|--------|------|-------|---------|------|-------|
| | | | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) |
| 1(1) | 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める | 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる | 91.7 | 92.5 | 93.5 | 0.9 | 0.9 | 0.8 |
| 1(2) | 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く | 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる | 87.4 | 87.7 | 88.5 | 1.1 | 1.0 | 1.0 |
| 1(3) | 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く | 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる | 49.9 | 50.8 | 55.5 | 5.9 | 4.2 | 3.4 |
| 1(4) | 全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する | 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる | 78.4 | 76.6 | 80.8 | 1.3 | 1.4 | 1.2 |
| 2(1) | テープを2本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ | 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる | 60.4 | 60.8 | 59.8 | 0.4 | 0.6 | 0.7 |
| 2(2) | テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く | 正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる | 86.0 | 86.9 | 87.2 | 3.9 | 3.0 | 2.9 |
| 2(3) | 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く | 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる | 23.1 | 21.7 | 24.9 | 4.6 | 4.2 | 3.7 |
| 2(4) | テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く | 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる | 28.3 | 25.5 | 20.8 | 5.0 | 4.1 | 4.0 |
| 3(1) | 2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ | ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる | 65.2 | 67.8 | 70.3 | 1.5 | 1.5 | 1.4 |
| 3(2) | 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する | 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる | 52.7 | 53.4 | 56.7 | 6.7 | 4.6 | 4.0 |
| 3(3) | $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める | 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる | 70.6 | 69.1 | 72.4 | 3.3 | 2.8 | 2.5 |
| 3(4) | $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ | (2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる | 44.4 | 45.6 | 47.6 | 4.1 | 4.4 | 3.9 |
| 4(1) | 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ | 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる | 45.7 | 45.1 | 46.0 | 4.1 | 2.7 | 2.4 |
| 4(2) | 運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める | 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる | 75.0 | 74.2 | 75.7 | 6.5 | 4.9 | 4.3 |
| 4(3) | 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く | 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる | 52.9 | 54.3 | 56.2 | 17.2 | 14.9 | 13.8 |
| 4(4) | 二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ | 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる | 64.7 | 63.2 | 64.6 | 7.0 | 5.4 | 4.9 |

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

(3) 小学校算数 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

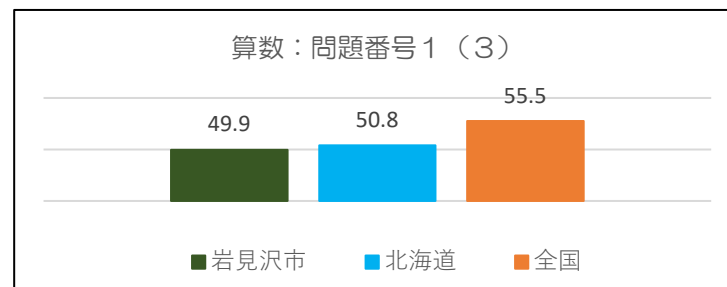
問題番号1 (3)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く |
| 出題の趣旨 | 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 49.9 | 50.8 | 55.5 | -5.6 |

(課題)

全国と比べ、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述」できていない児童が多い。授業では、表などを用いて椅子の数が1.2倍になるから重さも1.2倍になるなど、変化の規則性を基に説明できるようにすることが大切です。



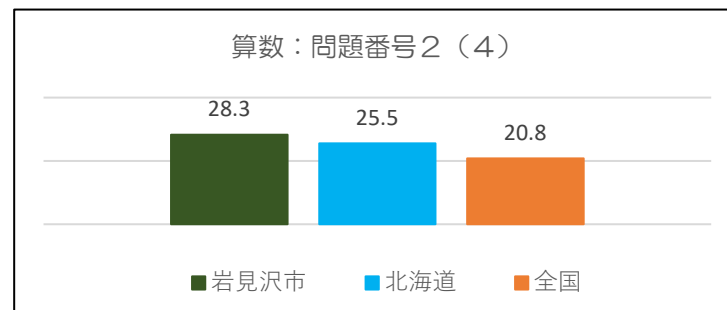
問題番号2 (4)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大きさについて分かることを選び、選んだわけを書く |
| 出題の趣旨 | 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 28.3 | 25.5 | 20.8 | 7.5 |

(成果)

全国と比べ、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことができていない児童が多い。底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなることを公式から判断できるようにすることも大切です。



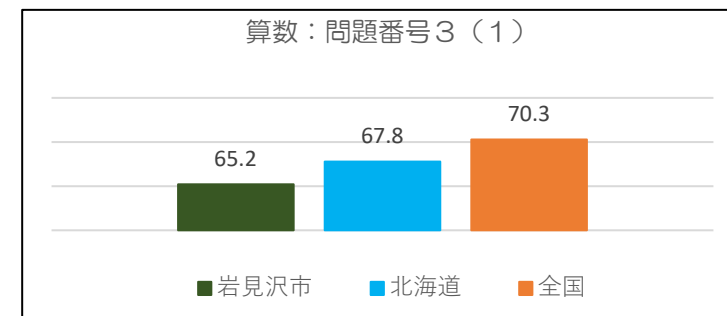
問題番号3 (1)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ |
| 出題の趣旨 | ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 65.2 | 67.8 | 70.3 | -5.1 |

(課題)

全国と比べ、「()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」ことができていない児童が多い。授業では、具体的な場面と関連付けて式を読んだりすることができるようにすることが重要です。



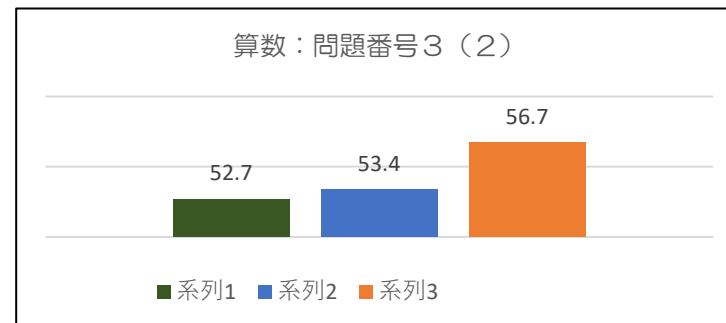
問題番号3 (2)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する |
| 出題の趣旨 | 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|----|
| 52.7 | 53.4 | 56.7 | -4 |

(課題)

全国と比べ、「示された場面を解釈し、求め方と答えを式や言葉で記述する」ことができていない児童が多い。授業では、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることや、式から分かること、能率的に計算することなどを考えられるようにすることが重要です。



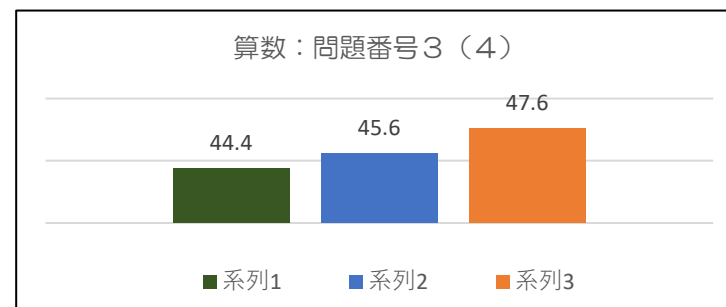
問題番号3 (4)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 66 ÷ 3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ |
| 出題の趣旨 | (2位数) ÷ (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 44.4 | 45.6 | 47.6 | -3.2 |

(課題)

全国と比べ、「わり算の筆算について、各段階の商の意味」を理解できていない児童が多い。筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりする学習活動を重視することが重要です。



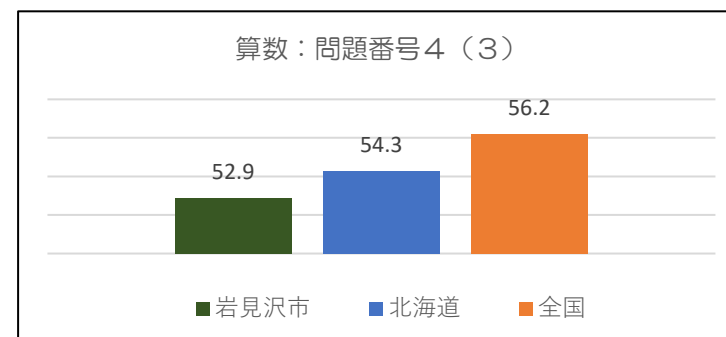
問題番号4 (3)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く |
| 出題の趣旨 | 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 52.9 | 54.3 | 56.2 | -3.3 |

(課題)

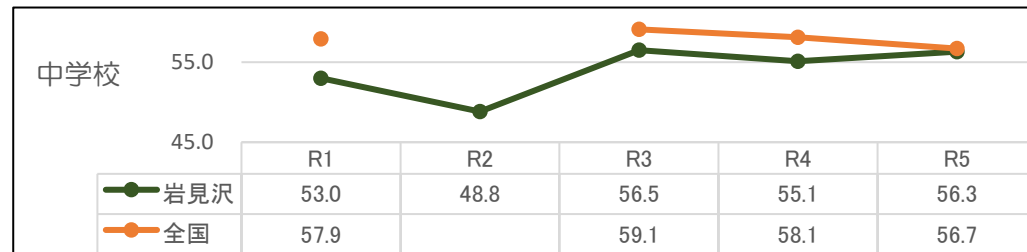
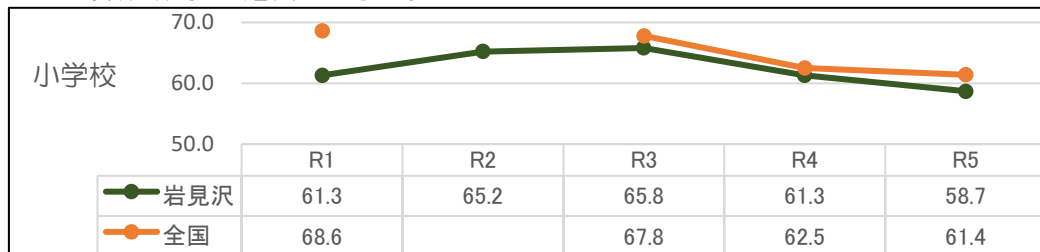
全国と比べ、「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」ことができていない児童が多い。授業では、目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにする学習活動が重要です。



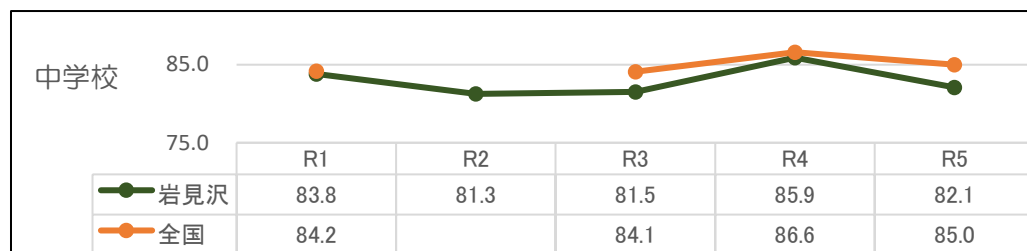
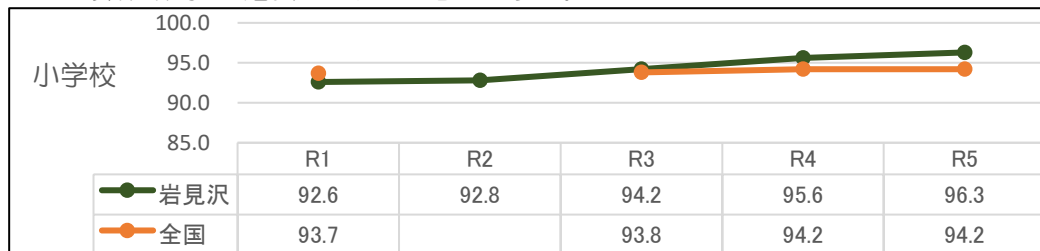
(4) 小・中学校算数(数学) 児童生徒質問紙調査

- ・小学校算数・中学校数学の設問については、ほぼ全国と同様の傾向がみられる。岩見沢市の児童生徒の顕著な回答は、次のとおりである。
- ・(54)「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の問いに肯定的に回答している割合は、小学校では9割を超えており、昨年度より上昇した。また、(52)「算数の勉強は大切だと思うか」の問いに肯定的に回答して児童の割合は上昇傾向にあり、全国平均を上回っている。
- ・一方、(51)「算数の勉強は好きか」の問いに肯定的に回答している児童の割合は下降傾向にある。

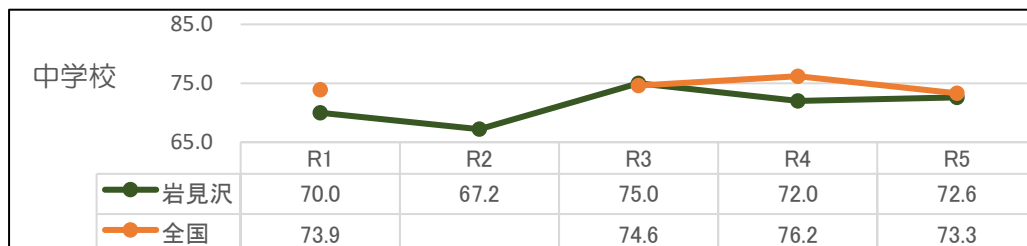
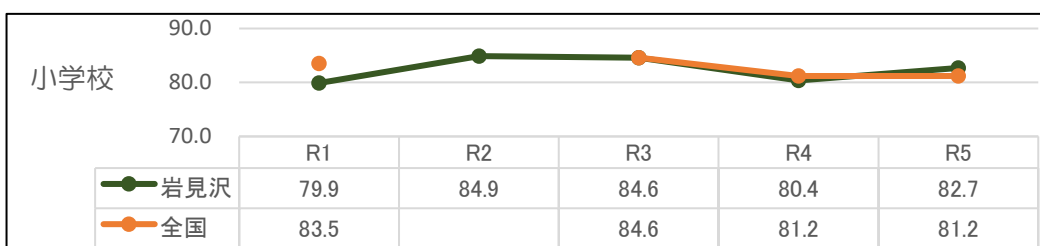
○(51)算数(数学)の勉強は好きですか



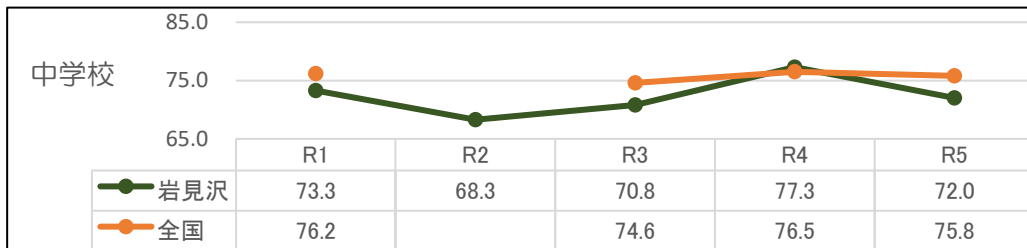
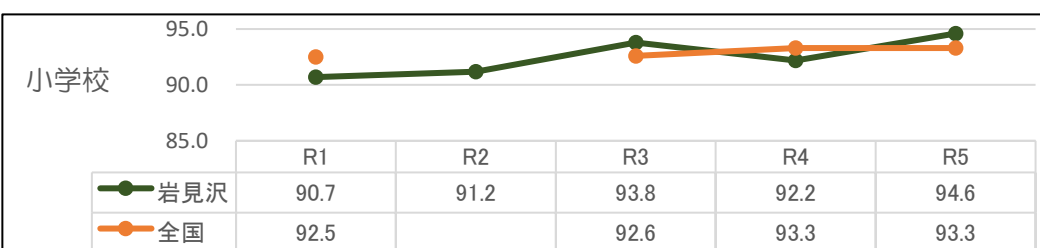
○(52)算数(数学)の勉強は大切だと思いますか。



○(53)算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか



○(54)算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



Ⅲ 教科に関する調査

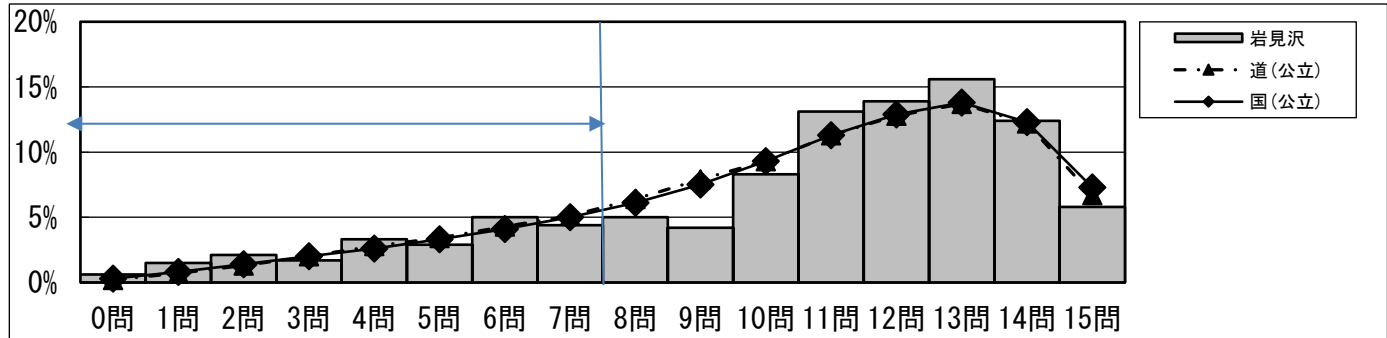
3 中学校国語

【概要】
 ○ 平均正答率は69【69.3】%
 ○ 平均正答率の小数値での比較では、全国との差は、-0.5ポイント

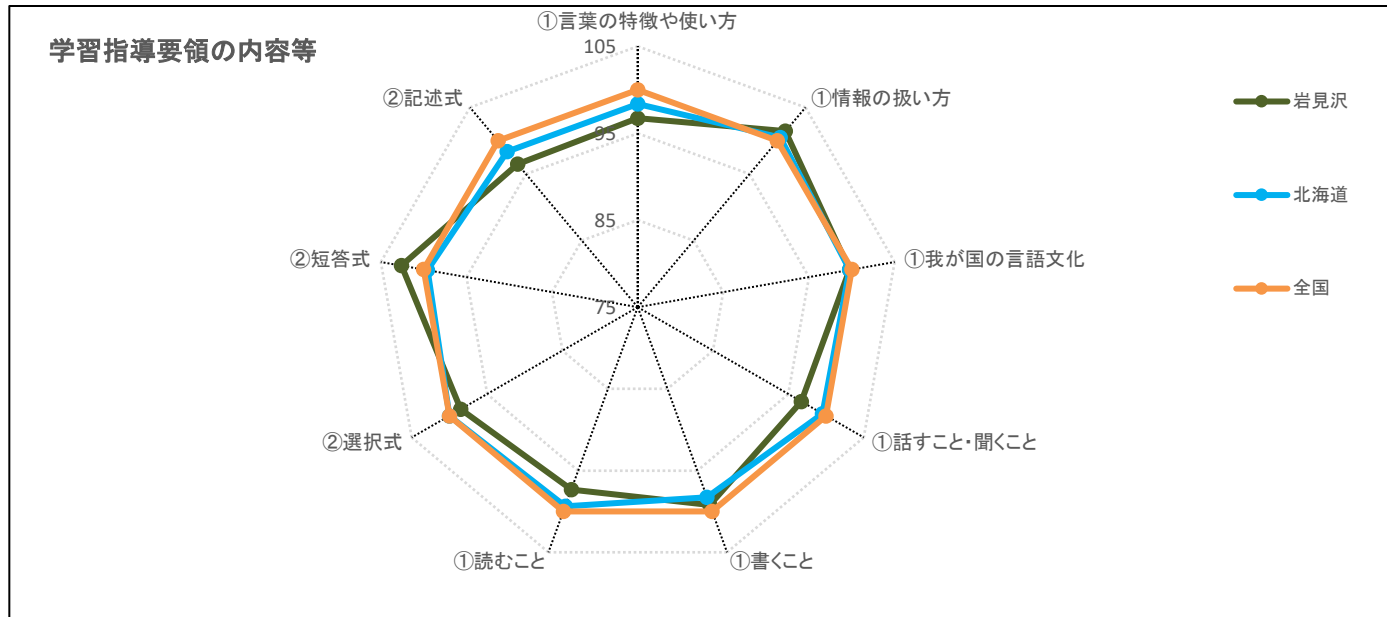
| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|---------|---------|-----------|----------|------|------|
| 岩見沢市 | 518 | 10.4 / 15 | 69 | 11.0 | 3.6 |
| 北海道(公立) | 34,256 | 10.4 / 15 | 69 | 11.0 | 3.4 |
| 全国(公立) | 892,738 | 10.5 / 15 | 69.8 | 11.0 | 3.4 |

■ 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

- 割合：岩見沢 21.9%
全国 19.2%
- 正答数：15問中7問以下
- 全国との差：2.7ポイント多い



正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



| 正答数 | 割合(%) | | | |
|-----|-------|------|-------|-------|
| | 生徒数 | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
| 15問 | 30 | 5.8 | 6.7 | 7.3 |
| 14問 | 64 | 12.4 | 12.2 | 12.3 |
| 13問 | 81 | 15.6 | 13.7 | 13.8 |
| 12問 | 72 | 13.9 | 12.8 | 12.9 |
| 11問 | 68 | 13.1 | 11.3 | 11.3 |
| 10問 | 43 | 8.3 | 9.3 | 9.3 |
| 9問 | 22 | 4.2 | 7.9 | 7.5 |
| 8問 | 26 | 5.0 | 6.4 | 6.1 |
| 7問 | 23 | 4.4 | 5.1 | 5.0 |
| 6問 | 26 | 5.0 | 4.3 | 4.1 |
| 5問 | 15 | 2.9 | 3.4 | 3.3 |
| 4問 | 17 | 3.3 | 2.8 | 2.6 |
| 3問 | 9 | 1.7 | 2.0 | 2.0 |
| 2問 | 11 | 2.1 | 1.3 | 1.4 |
| 1問 | 8 | 1.5 | 0.7 | 0.8 |
| 0問 | 3 | 0.6 | 0.2 | 0.3 |

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

| | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
|---------|-------|-------|-------|
| △ 第3四分位 | 13.0問 | 13.0問 | 13.0問 |
| ◇ 第2四分位 | 11.0問 | 11.0問 | 11.0問 |
| ▽ 第1四分位 | 8.0問 | 8.0問 | 8.0問 |

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】
 四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と同数である。
 生徒数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」では、やや少ない。また、「正答数の少ない層」では、やや多い。

(1) 中学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【思考力、判断力、表現力等】

【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、96.7%で、3.3ポイント下回っている。令和4年度は101.3%であり、下降している。
- ・問題番号では、1一、1三、1四の3問が該当し、全て全国を下回っている。
- ◇「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」ことはできている。〔1一〕
- ◆「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する」ことに課題がある。〔1三〕

【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、99.2%で、0.8ポイント下回っている。令和4年度は92.5%であり、全国との差は縮まっている。
- ・問題番号では、3一、3四が該当し、両方とも全国を下回っている。
- ◆「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整える」ことに課題がある。〔3一〕

【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、97.3%で、2.7ポイント下回っている。令和4年度は101.9%であり、下降している。
- ・問題番号では2二、2三、2四、4三が該当し、2二と4三は全国を上回っているが、2三と2四は下回っている。
- ◇「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」ことは、全国と比べできている。〔2二〕
- ◆「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりする」ことに課題がある。〔2四〕
- ◆「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」ことに課題がある。〔4三〕

【知識及び技能】

【言語の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、96.7%で、3.3ポイント下回っている。令和4年度は101.5%であり、下降している。
- ・問題番号では、2一、3二が該当し、両方とも全国を下回っている。
- ◆「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに課題がある。〔3二〕

【情報の扱い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、101.4%で、1.4ポイント上回っている。令和4年度は99.4%であり、上昇している。
- ・問題番号では、1二、3三が該当し、3三は全国を上回っているが、1二は下回っている。
- ◇「情報と情報との関係について理解する」ことは全国と比べるとできている。〔3三〕

【我が国の言語文化に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は、99.7ポイントで、0.3ポイント下回っている。令和4年度は99.4%であり、上昇傾向にある。
- ・問題番号では、2四、4一、4二が該当し、4一、4二は全国を上回っているが、2四は8.4ポイント下回っている。
- ◆「本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり、深めたりする」ことに課題がある。〔2四〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- ・本市では、全国と比べ「話すこと・聞くこと」領域の正答率が低く、1三の「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する」ことに課題が見られます。
- ・そのため、例えば、実際にインタビューをする学習の中に、共通の目的や状況を設定し、それらに応じた質問の仕方や内容、適切なタイミングなどを検討する活動を位置付けることなどが考えられます。また、振り返り際には、録画したインタビューの動画を視聴するなど、ICT機器を活用することも効果的です。
- ・全国的に正答率もともと低かった問題は[知識及び技能]「言語の特徴や使い方に関する事項」の3二で「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに課題が見られます。
- ・そのため、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことが大切です。また、タブレットを活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要です。

(2) 中学校国語 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率(%) | | | 無解答率(%) | | |
|------|--|---|--------|------|-------|---------|------|-------|
| | | | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) |
| 1一 | インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する | 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる | 84.6 | 87.6 | 87.5 | 0.0 | 0.1 | 0.1 |
| 1二 | インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する | 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる | 63.5 | 65.0 | 65.1 | 0.0 | 0.1 | 0.2 |
| 1三 | 相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する | 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる | 73.6 | 76.1 | 76.6 | 0.2 | 0.1 | 0.2 |
| 1四 | インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く | 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる | 80.5 | 81.7 | 82.5 | 12.4 | 11.9 | 10.8 |
| 2一 | 「落胆する」の意味として適切なものを選択する | 事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる | 90.9 | 91.8 | 91.1 | 0.0 | 0.1 | 0.2 |
| 2二 | 二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する | 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる | 67.4 | 63.7 | 63.0 | 0.0 | 0.3 | 0.4 |
| 2三 | それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する | 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる | 70.1 | 73.7 | 74.2 | 0.0 | 0.2 | 0.3 |
| 2四 | 自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く | 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる | 59.1 | 65.6 | 67.5 | 4.1 | 4.3 | 3.9 |
| 3一 | レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する | 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる | 53.9 | 54.1 | 54.3 | 0.0 | 0.5 | 0.6 |
| 3二 | 漢字を書く(おし量って) | 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる | 39.6 | 41.1 | 43.9 | 13.3 | 11.5 | 10.7 |
| 3三 | 「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く | 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる | 65.1 | 62.3 | 61.8 | 1.9 | 2.1 | 2.1 |
| 3四 | 「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く | 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる | 71.6 | 70.1 | 72.1 | 9.5 | 11.9 | 10.2 |
| 4一 | 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける) | 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる | 85.1 | 82.5 | 82.5 | 4.1 | 3.5 | 3.6 |
| 4二 | 原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと) | 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる | 79.3 | 75.3 | 74.1 | 6.2 | 5.0 | 4.8 |
| 4三 | 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く | 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる | 51.4 | 50.1 | 50.0 | 19.5 | 22.7 | 20.7 |

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

(3) 中学校国語 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上の差がある問題

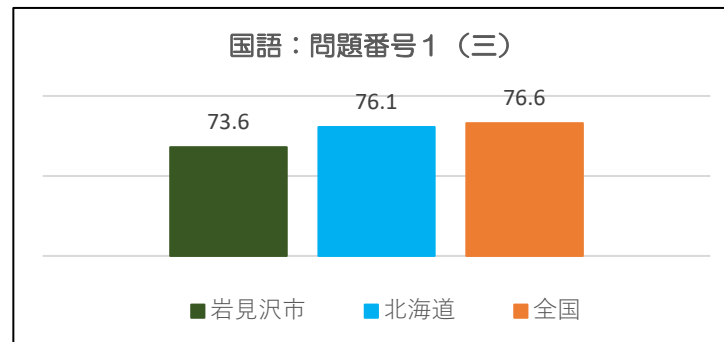
問題番号1 (三)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|----|
| 73.6 | 76.1 | 76.6 | -3 |

(課題)

全国と比べ、「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること」ができなかった生徒が多い。授業では、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりできるよう指導することが大切です。



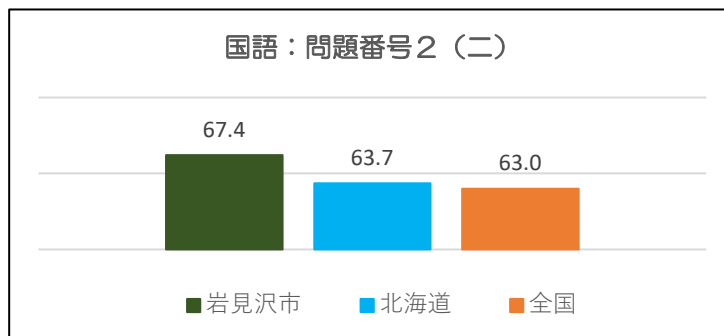
問題番号2 (二)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 67.4 | 63.7 | 63.0 | 4.4 |

(成果)

全国と比べ、「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」ことができている生徒が多い。今後とも、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫がどのように働いているか考えさせることが大切です。



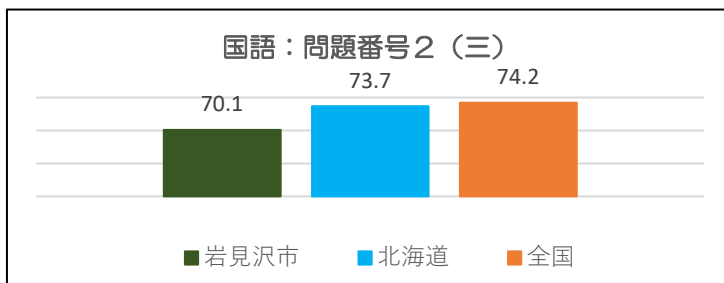
問題番号2 (三)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択するにスマート農業の効果を書き加える |
| 出題の趣旨 | 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 70.1 | 73.7 | 74.2 | -4.1 |

(課題)

全国と比べ、「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する」ことに課題がある。説明的な文章を読む際には、文章の構造を捉えて要旨を把握するよう指導することが大切です。



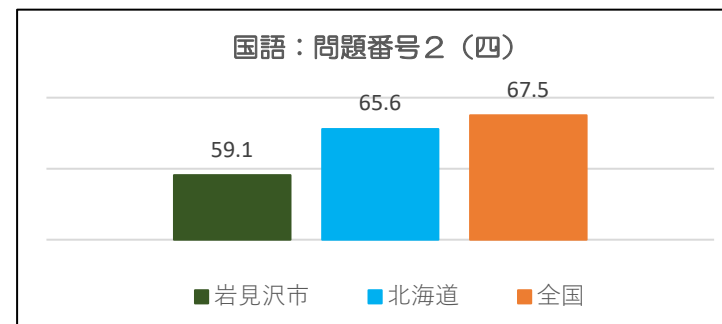
問題番号2 (四)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く |
| 出題の趣旨 | 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 59.1 | 65.6 | 67.5 | -8.4 |

(課題)

全国と比べ、「文章を読んで理解したことと自分の考えを結び付け、条件に沿って意見を書く」ことができなかった生徒が多い。授業では生徒が課題を設定し、その解決のための文章を読む学習活動で文章と自分の考えを比較するなどの場面を設定する必要があります。



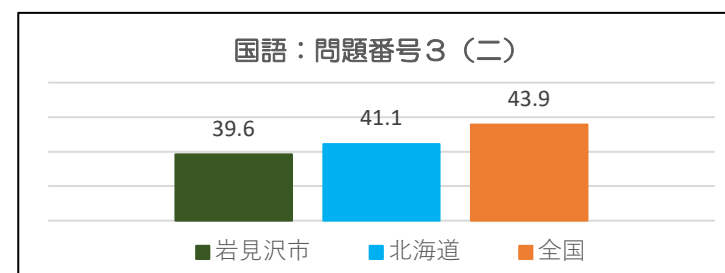
問題番号3 (二)

| | |
|-------|-----------------------------|
| 問題の概要 | 漢字を書く (おし量って) |
| 出題の趣旨 | 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 39.6 | 41.1 | 43.9 | -4.3 |

(課題)

全国と比べ、「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに課題がある。必要に応じて辞書を引くことを習慣付けたり、タブレット入力の際にも、漢字のもつ意味に留意して適切に選択する力を養うことが重要です。



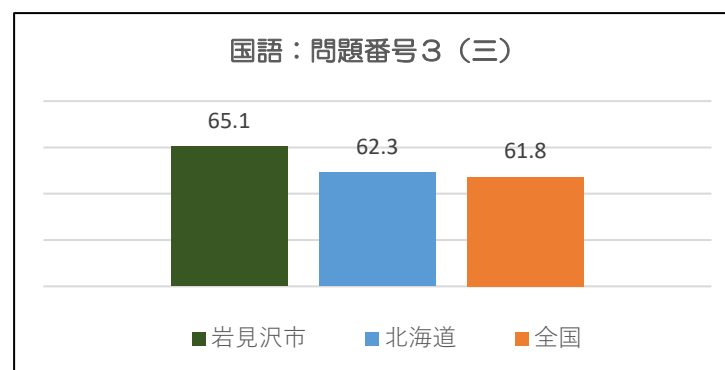
問題番号3 (三)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く |
| 出題の趣旨 | 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 65.1 | 62.3 | 61.8 | 3.3 |

(成果)

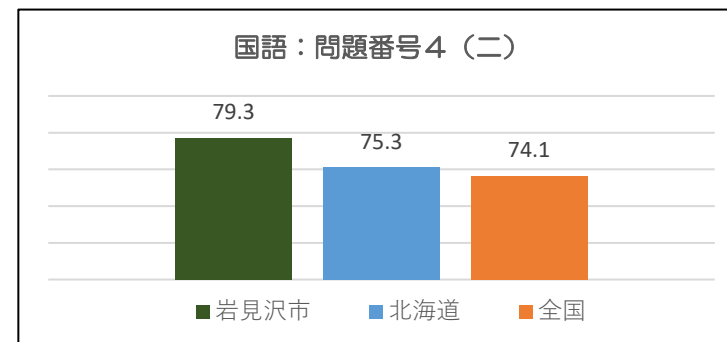
全国と比べ、「内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、見出しをつける」ことはできている。今後も授業では、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが大切です。



問題番号4 (二)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと) |
| 出題の趣旨 | 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる |

| | | | |
|------|------|------|-----|
| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
| 79.3 | 75.3 | 74.1 | 5.2 |



(成果)

全国と比べ、「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える」ことはできている。今後とも授業では、古典の易しい現代語訳や語注、古典について解説した文章などを手掛かりに、内容を捉えることができるような指導が大切です。

3ポイント以上できなかった問題の領域等(4問)

| 問題番号 | 学習指導要領の内容(領域) | 差 |
|------|-------------------------|------|
| 1(三) | 思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと) | -3 |
| 2(三) | 思考力・判断力・表現力等(C 読むこと) | -4.1 |
| 2(四) | 知識及び技能(我が国の言語文化に関する事項) | -8.4 |
| 3(二) | 知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項) | -4.3 |

| 内容別 | 知識及び技能 | 2問 |
|-----|--------------|----|
| | 思考力・判断力・表現力等 | 2問 |

【考察】

- 全国と比べて3ポイント以上できなかった問題は、
- ・学習指導要領の内容別に見ると、【知識及び技能】と、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が各2問ずつとなっている。
 - ・どちらかという、【知識及び技能】を問う問題の方が全国との差が大きい。
 - ・特に、全国との差が一番大きかった2(四)の問題は、【思考力等】(C 読むこと)の内容も含まれており、問題形式は記述式となっている。また、問題に示された条件に沿って解答を書くことにも課題が見られる。

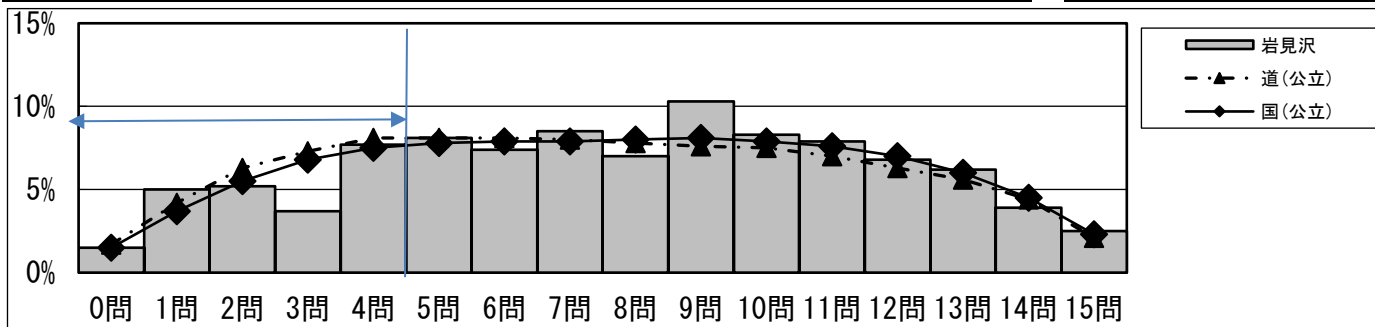
Ⅲ 教科に関する調査

4 中学校数学

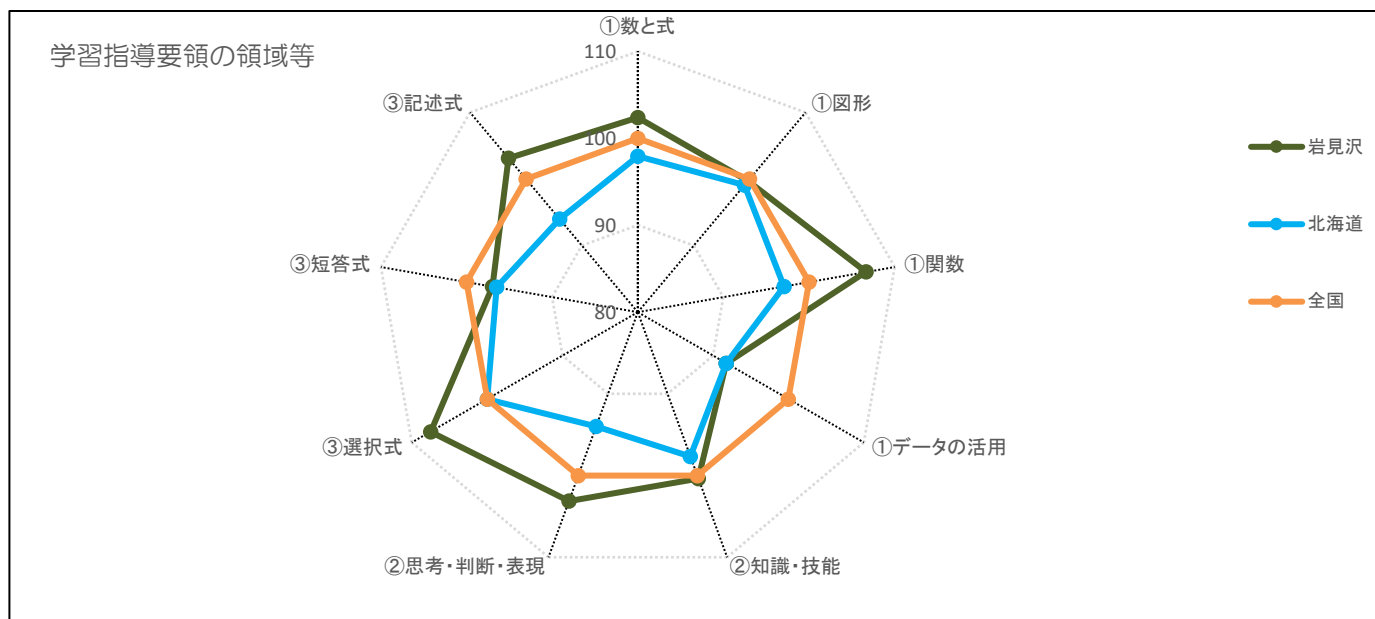
【概要】

- 平均正答率は52【51.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、+0.3ポイント

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|---------|---------|----------|----------|-----|------|
| 岩見沢 | 517 | 7.7 / 15 | 52 | 8.0 | 3.9 |
| 北海道(公立) | 34,259 | 7.4 / 15 | 49 | 7.0 | 3.9 |
| 全国(公立) | 893,114 | 7.6 / 15 | 51.0 | 8.0 | 3.9 |



正答数分布グラフ(横軸: 正答数、縦軸: 割合)



■ 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

- 割合: 岩見沢 23.6%
全国 25.5%
- 正答数: 15問中4問以下
- 全国との差: 1.9ポイント少ない

| 正答数 | 生徒数 | 割合(%) | | |
|-----|-----|-------|-------|-------|
| | 岩見沢 | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
| 15問 | 13 | 2.5 | 2.1 | 2.3 |
| 14問 | 20 | 3.9 | 4.4 | 4.5 |
| 13問 | 32 | 6.2 | 5.6 | 6.0 |
| 12問 | 35 | 6.8 | 6.3 | 7.0 |
| 11問 | 41 | 7.9 | 7.0 | 7.6 |
| 10問 | 43 | 8.3 | 7.5 | 7.9 |
| 9問 | 53 | 10.3 | 7.6 | 8.1 |
| 8問 | 36 | 7.0 | 7.8 | 8.0 |
| 7問 | 44 | 8.5 | 8.0 | 7.9 |
| 6問 | 38 | 7.4 | 8.1 | 7.9 |
| 5問 | 42 | 8.1 | 8.1 | 7.8 |
| 4問 | 40 | 7.7 | 8.1 | 7.5 |
| 3問 | 19 | 3.7 | 7.3 | 6.8 |
| 2問 | 27 | 5.2 | 6.3 | 5.5 |
| 1問 | 26 | 5.0 | 4.2 | 3.7 |
| 0問 | 8 | 1.5 | 1.7 | 1.5 |

△
◇
▽

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

| | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
|---------|-------|-------|-------|
| △ 第3四分位 | 11.0問 | 11.0問 | 11.0問 |
| ◇ 第2四分位 | 8.0問 | 7.0問 | 8.0問 |
| ▽ 第1四分位 | 5.0問 | 4.0問 | 4.0問 |

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と比べ、第1四分位の正答数が1問多い。生徒数の割合は全国と比べ「正答数の多い層」ではやや少ない。また、「正答数の少ない層」でもやや少ない。

(1) 中学校数学 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【数と式】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、102.3%で、2.3ポイント上回っている。令和4年度は94.8%であり、上昇している。
- 問題番号では、1、2、6(1)、6(2)、6(3)の5問が該当し、1、2、6(3)は全国を上回っているが、6(1)と6(2)は全国を下回っている。
- ◇「数と整式の情報の計算をする」ことはできている。〔2〕
- ◆「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」ことに課題がある。〔6(2)〕
- ◆「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明する」ことに課題がある。〔6(3)〕

【図形】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、99.7%で、0.3ポイント下回っている。令和4年度は99.3%であり、上昇傾向にある。
- 問題番号では、3、9(1)、9(2)が該当し、3は全国を上回っているが、残りは全国を下回っている。
- ◆「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることへの理解」に課題がある。〔3〕
- ◆「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」ことに課題がある。〔9(1)〕

【関数】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、106.6%で、6.6ポイント上回っている。令和4年度は102.1%であり、共に全国より高い。
- 問題番号では、4、8(1)、8(2)、8(2)が該当し、全て全国を上回っている。
- ◇「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈する」ことは全国と比べ、できている。〔8(2)〕
- ◆「反比例の意味の理解」に課題がある。〔4〕

【データの活用】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、91.8%で、8.2ポイント下回っている。令和4年度は101.1%であり、下降している。
- 問題番号では、5、7(1)、7(2)が該当し、7(2)を除いて全国を下回っている。特に、5は全国を9.3ポイント下回っている。
- ◆「累積度数の意味の理解」に課題がある。〔5〕
- ◆「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことに課題がある。〔7(2)〕

② 課題から見られる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ「A数と式」と「C関数」領域の正答率は高く、「B図形」と「Dデータの活用」は低くなっています。昨年度は「C関数」と「Dデータの活用」が全国を上回っておりましたので、今年度は「A数と式」が上昇し、「Dデータの活用」が下降したと言えます。
- 特に、「Dデータの活用」の5「累積度数の意味の理解」が全国と比べ9.3ポイント下回っているため、例えば、不確実な事象についてデータに基づいて考察する場面では、度数分布表やヒストグラムを作成し、データの特徴や分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようにすることが大切です。また、「B図形」領域では、9(1)「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること」がもっとも正答率が低かったため、授業では、構想を立て、それに基づいて仮説から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。
- 全国的に平均正答率がもっとも低かった問題は「B図形」領域の3「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることへの理解」で、3割程度です。岩見沢市の平均正答率は全国平均を上回ったものの、低い状況にあります。そのため、例えば、カメラを固定する「一脚」と「三脚」を取り上げ、三脚の方が安定することなどを通して、実感を伴って理解することができるような指導が考えられます。

(2) 中学校数学 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率(%) | | | 無解答率(%) | | |
|------|--|---|--------|------|-------|---------|------|-------|
| | | | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) | 岩見沢市 | (公道) | (公全国) |
| 1 | -5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ | 自然数の意味を理解しているかどうかをみる | 53.2 | 49.9 | 46.1 | 0.0 | 0.1 | 0.1 |
| 2 | $12(x/4 + y/6)$ を計算する | 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる | 82.2 | 79.7 | 80.5 | 4.8 | 4.4 | 4.0 |
| 3 | 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ | 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる | 33.5 | 30.6 | 30.4 | 0.4 | 0.6 | 0.8 |
| 4 | yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ | 反比例の意味を理解しているかどうかをみる | 42.9 | 41.7 | 42.8 | 0.4 | 0.5 | 0.5 |
| 5 | 女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める | 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる | 36.8 | 39.4 | 46.1 | 12.2 | 13.0 | 11.0 |
| 6(1) | はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める | 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる | 88.2 | 88.1 | 88.9 | 4.1 | 2.8 | 2.4 |
| 6(2) | はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する | 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる | 57.8 | 53.3 | 58.8 | 11.6 | 13.3 | 10.6 |
| 6(3) | はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する | 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる | 41.0 | 37.5 | 40.9 | 24.6 | 28.1 | 24.7 |
| 7(1) | 1961年～1975年の四分位範囲を求める | 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる | 61.3 | 62.5 | 65.7 | 7.5 | 6.8 | 5.6 |
| 7(2) | 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する | 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる | 35.4 | 31.5 | 33.6 | 22.2 | 25.0 | 22.8 |
| 8(1) | 晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く | 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる | 60.2 | 55.8 | 57.5 | 9.7 | 9.9 | 8.6 |
| 8(2) | 二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ | 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる | 65.4 | 59.0 | 61.7 | 0.8 | 1.1 | 1.1 |
| 8(3) | グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する | 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる | 49.9 | 42.2 | 42.8 | 12.2 | 15.2 | 13.2 |
| 9(1) | 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する | ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる | 30.2 | 31.2 | 32.1 | 26.5 | 26.7 | 24.7 |
| 9(2) | 二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く | 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる | 35.8 | 36.9 | 37.0 | 14.7 | 15.1 | 14.2 |

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

(3) 中学校数学 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

【A 数と式】

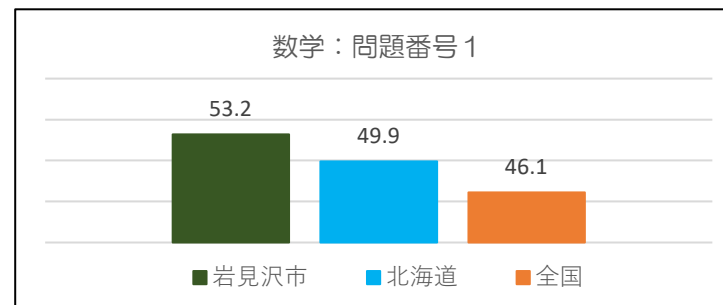
問題番号1

| | |
|-------|--------------------------|
| 問題の概要 | -5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ |
| 出題の趣旨 | 自然数の意味を理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 53.2 | 49.9 | 46.1 | 7.1 |

(成果)

全国と比べ、「自然数の意味」を理解できている生徒が多い。今後とも授業では、数の集合を捉え直す場面を設定し、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れたりすることが重要です。



【B 図形】

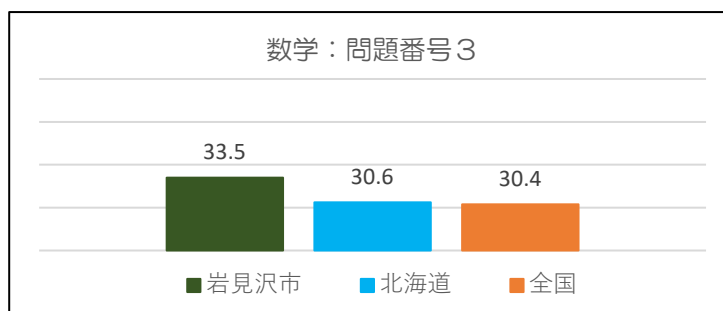
問題番号3

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ |
| 出題の趣旨 | 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 33.5 | 30.6 | 30.4 | 3.1 |

(成果)

全国と比べ、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されること」を理解できている生徒が多い。今後とも授業で空間図形を扱う際には、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが重要です。



【D データの活用】

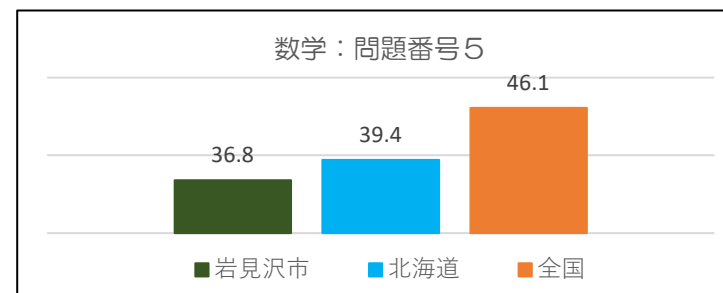
問題番号5

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める |
| 出題の趣旨 | 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 36.8 | 39.4 | 46.1 | -9.3 |

(課題)

全国と比べ、「累積度数の意味を理解する」ことができていない生徒が多い。授業では、具体的な例や数値を用いながら、データの分布傾向を捉える学習活動を行い、累積度数の必要性和意味について実感を伴って理解できるようにすることが大切です。



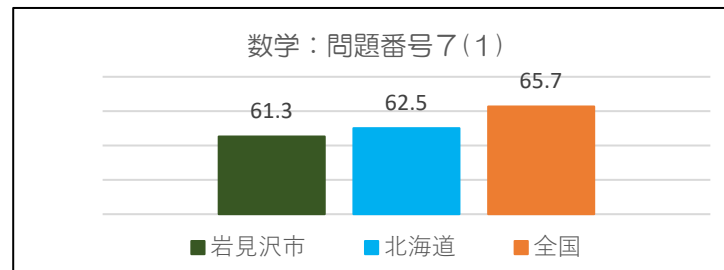
問題番号7(1)

| | |
|-------|------------------------|
| 問題の概要 | 1961年～1975年の四分位範囲を求める |
| 出題の趣旨 | 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 61.3 | 62.5 | 65.7 | -4.4 |

(課題)

全国と比べ、「四分位範囲の意味を理解」できていない生徒が多い。授業では、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る学習活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるように指導することが大切です。



【C 関数】

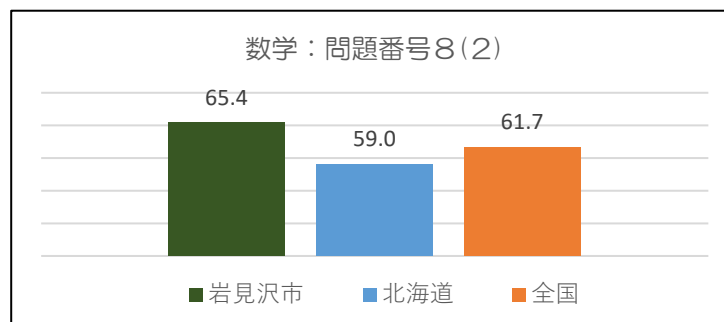
問題番号8(2)

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ |
| 出題の趣旨 | 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 65.4 | 59.0 | 61.7 | 3.7 |

(成果)

全国と比べ、「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈する」ことができていない生徒が多い。今後とも授業では、理想化・単純化されているものを確認する場面を設定し、事象と関連付けながら理解を深められる指導が大切です。



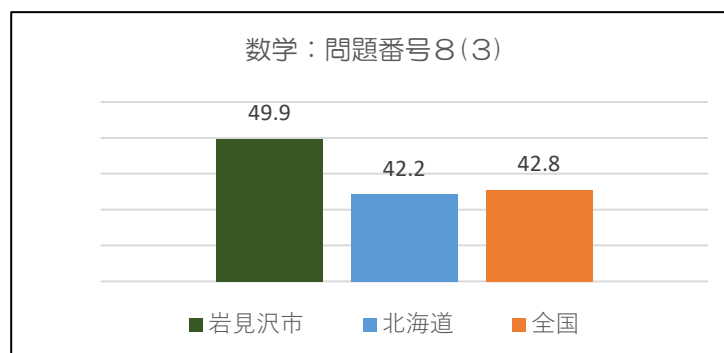
問題番号8(3)

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する |
| 出題の趣旨 | 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|-----|
| 49.9 | 42.2 | 42.8 | 7.1 |

(成果)

全国と比べ、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことができていない生徒が多い。今後とも授業では、様々な問題を表や式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、数学的に説明できるようにする指導が大切です。



Ⅲ 教科に関する調査結果

5 中学校英語

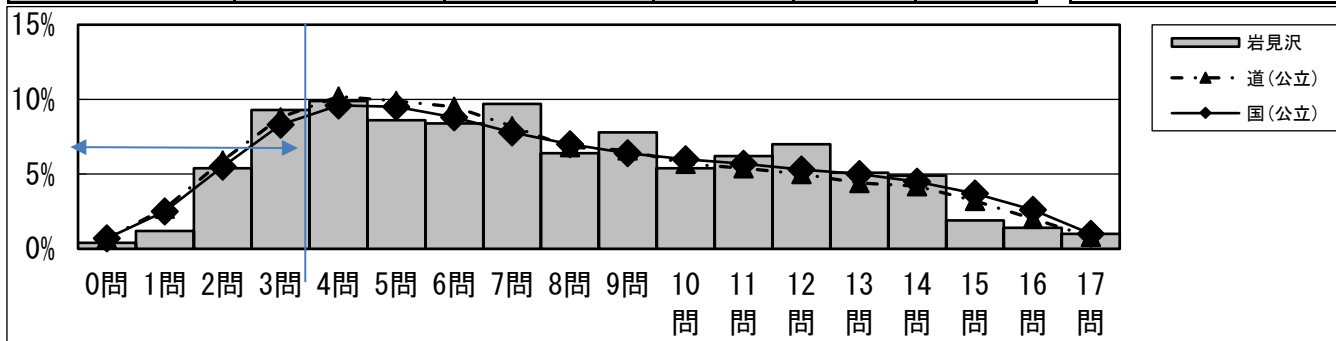
【概要】

- 平均正答率は45【45.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.3ポイント

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|---------|---------|----------|----------|-----|------|
| 岩見沢 | 514 | 7.7 / 17 | 45 | 7.0 | 3.9 |
| 北海道(公立) | 34,242 | 7.5 / 17 | 44 | 7.0 | 4.1 |
| 全国(公立) | 893,528 | 7.7 / 17 | 45.6 | 7.0 | 4.2 |

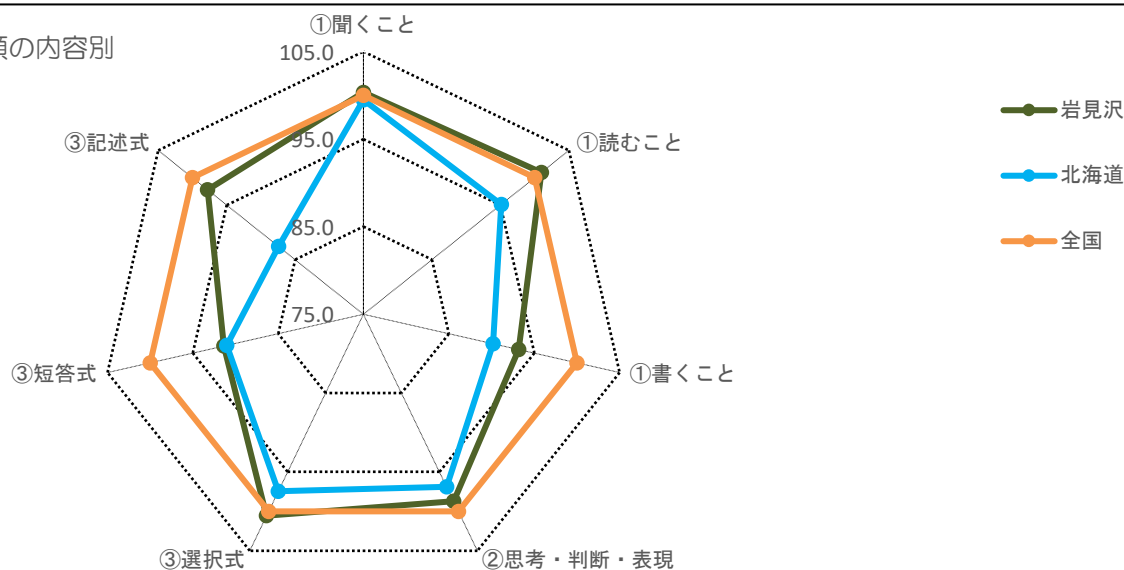
■全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

- ・割合：岩見沢 16.3%
：全国 17.0%
- ・正答数：17問中3問以下
- ・全国との差：0.7ポイント少ない



正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）

学習指導要領の内容別



| 正答数 | 正答数集計値 | | | |
|-----|--------|-------|-------|-------|
| | 生徒数 | 割合(%) | | |
| | 岩見沢 | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
| 17問 | 5 | 1.0 | 0.8 | 1.0 |
| 16問 | 7 | 1.4 | 2.0 | 2.6 |
| 15問 | 10 | 1.9 | 3.2 | 3.7 |
| 14問 | 25 | 4.9 | 4.2 | 4.5 |
| 13問 | 26 | 5.1 | 4.4 | 5.0 |
| 12問 | 36 | 7.0 | 5.0 | 5.3 |
| 11問 | 32 | 6.2 | 5.4 | 5.7 |
| 10問 | 28 | 5.4 | 5.7 | 6.0 |
| 9問 | 40 | 7.8 | 6.6 | 6.4 |
| 8問 | 33 | 6.4 | 6.8 | 7.0 |
| 7問 | 50 | 9.7 | 8.2 | 7.8 |
| 6問 | 43 | 8.4 | 9.5 | 8.8 |
| 5問 | 44 | 8.6 | 9.9 | 9.5 |
| 4問 | 51 | 9.9 | 10.2 | 9.6 |
| 3問 | 48 | 9.3 | 8.8 | 8.3 |
| 2問 | 28 | 5.4 | 5.9 | 5.5 |
| 1問 | 6 | 1.2 | 2.7 | 2.5 |
| 0問 | 2 | 0.4 | 0.7 | 0.7 |

△
◇
▽

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

| | 岩見沢 | 道(公立) | 国(公立) |
|---------|-------|-------|-------|
| △ 第3四分位 | 11.0問 | 11.0問 | 11.0問 |
| ◇ 第2四分位 | 7.0問 | 7.0問 | 7.0問 |
| ▽ 第1四分位 | 4.0問 | 4.0問 | 4.0問 |

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と同数である。生徒数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」はやや少ない。また、「正答数の少ない層」もやや少ない。

(1) 中学校英語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

① 課題等

【聞くこと】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、100.3%で0.3ポイント上回っている。平成31年度は101.2%であり、やや下降している。
- 問題番号では、1(1)、1(2)、1(3)、2、3、4の6問が該当し、1(1)と1(3)は全国を下回ってしたが、残りの4問は全国を上回っている。6問とも全国との差は2ポイント未満であり、全国と同様の傾向にあると言える。
- ◇「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることはできている。〔2〕
- ◆「情報を正確に聞き取る」ことについては、全国と比べやや課題がある。〔1(1)と1(3)〕
- ◆「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」ことに課題がある。〔3〕
- ◆「社会的な話題について、短い説明の要点を捉える」ことに課題がある。〔4〕

【読むこと】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は101.0%で1.0ポイント上回っている。平成31年度は96.4%であり、上昇傾向にある。
- 問題番号では、5(1)、5(2)、6、7(1)、7(2)、8(1)の6問が該当し、7(1)は全国を上回っているが、残りの5問は全国を下回っている。特に、7(1)は全国を13.4ポイント上回っている。一方、6と8(1)は全国と比べ、3ポイント以上下回っている。
- ◇「文と文との関係を正確に読み取る」ことはできている。〔7(1)〕
- ◆「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る」ことに課題がある。〔6〕
- ◆「社会的な話題について、短い文章の要点を捉える」ことに課題がある。〔8(2)〕

【書くこと】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.2%で6.8ポイント下回っている。平成31年度は93.7%であり、同様の傾向にある。
- 問題番号では、8(2)、9(1)①、9(1)②、9(2)、10の5問が該当し、8(2)と9(2)は全国を上回っているが、残りは全国を下回っている。特に、9(1)②と9(2)は全国を4ポイント以上下回っている。
- ◆「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」ことに課題がある。〔8(2)〕
- ◆「文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く」ことに課題がある。〔9(1)、9(2)〕
特に、「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く」ことに課題がある。〔9(1)②〕
- ◆「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」ことに課題がある。〔10〕

② 課題から考えられる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ「聞くこと」、「読むこと」は全国を上回っていますが、「書くこと」は全国を大きく下回っています。中でも、9(1)①、②「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題」、10「学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題」などに課題が見られます。
- そのため、例えば、生徒が文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動や、書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、生徒自身が読み直して誤りを修正したり、ペアでチェックし合ったりして正確な英文に書く直す活動に取り組む必要があります。
- 全国的に最も正答率が低かった問題は10「学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」問題で、いくつかの条件を満たしながら、まとまりのある英文を書くことに課題が見られます。そのため、読むことの活動を書くことの活動につなげていく指導を行うことも大切です。

(5) 中学校英語 問題別集計結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率(%) | | | 無解答率(%) | | |
|-------|--|--|--------|------|------|---------|------|------|
| | | | 岩見沢市 | (公道) | (全国) | 岩見沢市 | (公道) | (全国) |
| 1(1) | ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する | 情報を正確に聞き取ることができるかをみる | 77.4 | 77.6 | 79.0 | 0.2 | 0.1 | 0.1 |
| 1(2) | 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する | 情報を正確に聞き取ることができるかをみる | 64.8 | 65.9 | 64.4 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| 1(3) | 買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する | 情報を正確に聞き取ることができるかをみる | 49.2 | 47.1 | 49.8 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| 2 | 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する | 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかをみる | 62.3 | 60.6 | 61.1 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| 3 | バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する | 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかをみる | 42.2 | 41.5 | 41.2 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| 4 | 水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する | 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかをみる | 55.6 | 56.2 | 54.8 | 0.6 | 0.4 | 0.4 |
| 5(1) | ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する | 情報を正確に読み取ることができるかをみる | 55.1 | 52.9 | 56.0 | 0.0 | 0.2 | 0.3 |
| 5(2) | 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する | 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかをみる | 62.3 | 61.5 | 64.5 | 0.0 | 0.2 | 0.3 |
| 6 | 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する | 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかをみる | 32.3 | 32.6 | 35.9 | 0.0 | 0.2 | 0.3 |
| 7(1) | 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する | 文と文との関係を正確に読み取ることができるかをみる | 73.2 | 58.2 | 59.8 | 0.0 | 0.3 | 0.3 |
| 7(2) | 図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する | 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかをみる | 34.6 | 33.0 | 34.7 | 0.6 | 0.7 | 0.7 |
| 8(1) | ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する | 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかをみる | 52.7 | 53.7 | 56.1 | 0.6 | 0.8 | 0.8 |
| 8(2) | ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く | 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかをみる | 20.4 | 17.2 | 19.5 | 28.6 | 33.1 | 29.3 |
| 9(1)① | 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる | 未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかをみる | 36.2 | 37.1 | 40.4 | 9.5 | 7.7 | 6.6 |
| 9(1)② | 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる | 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかをみる | 16.0 | 15.6 | 20.9 | 16.3 | 13.0 | 10.9 |
| 9(2) | メールの英文を依頼する表現に書き換える | 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかをみる | 30.4 | 29.3 | 29.0 | 29.4 | 26.8 | 24.5 |
| 10 | 学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く | 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかをみる | 6.0 | 6.3 | 7.4 | 21.4 | 25.9 | 21.4 |

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

(3) 中学校英語 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

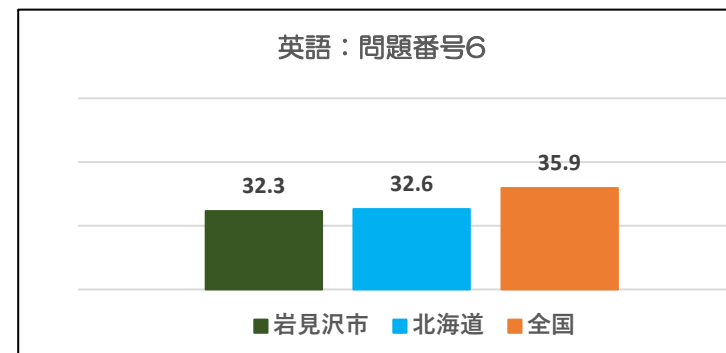
問題番号6

| | |
|-------|--|
| 問題の概要 | 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する |
| 出題の趣旨 | 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 32.3 | 32.6 | 35.9 | -3.6 |

(課題)

相手から送られてきたメールを読んでいく中で、相手が到着する日時や出発する日時についての情報を読み取れておらず、相手が示した条件に合うイベントの判断が誤ったと考えられる。このことから、自分の置かれている状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができていないと考えられる。



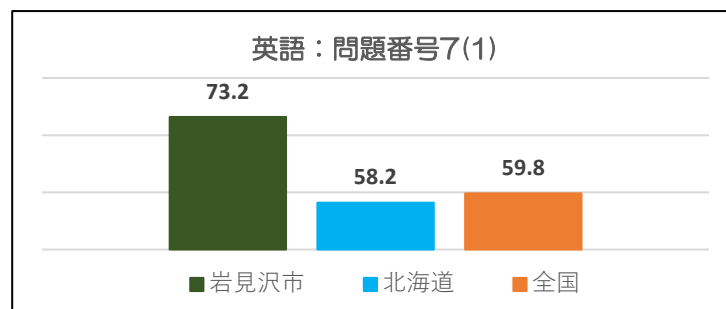
問題番号7(1)

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 問題の概要 | 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する |
| 出題の趣旨 | 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 73.2 | 58.2 | 59.8 | 13.4 |

(成果)

岩見沢市の正答率は、全国と比べかなり高く、文と文との関係を正確に読み取る技能が身に付いていると言える。一方、本問の趣旨は問題番号7(2)の「短い文章を読むことを通して、概要を捉えることができる」で、正答率は全国よりやや低く課題がある。



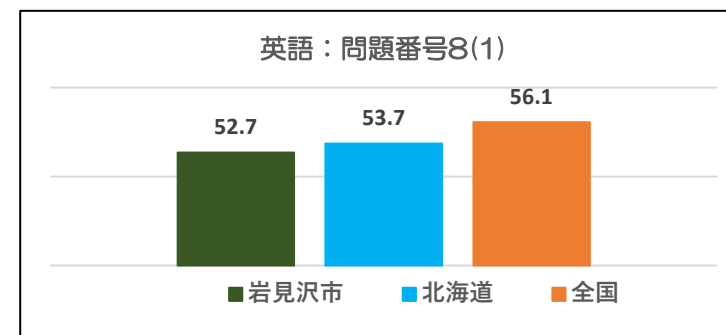
問題番号8(1)

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 問題の概要 | ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する |
| 出題の趣旨 | 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 52.7 | 53.7 | 56.1 | -3.4 |

(課題)

ロボットについて書かれた短い文章を読み、文章の要点を捉えたり、書き手の最も伝えたいことを判断したりする問題であったが、書き手の最も伝えたいことを捉えることができていない生徒が多いと言える。



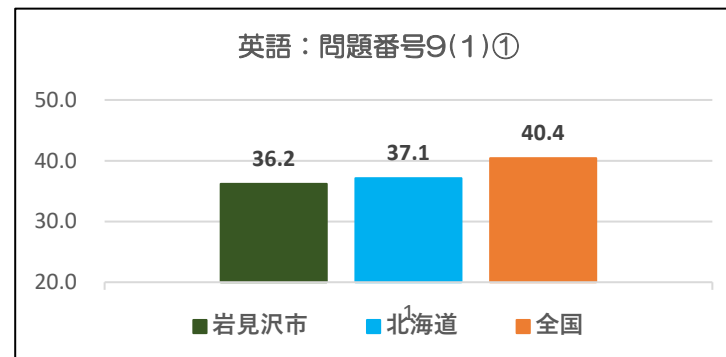
問題番号9(1)①

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる |
| 出題の趣旨 | 未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 36.2 | 37.1 | 40.4 | -4.2 |

(課題)

未来形表現の肯定文を正確に書くことに課題が見られる。特に、会話の流れから時制を判断し、未来表表現の肯定文を書くことは理解できているが、be動詞の誤りやwillの次にくる動詞の誤りなど基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことに課題がある生徒が多い。また、無解答率も高い。



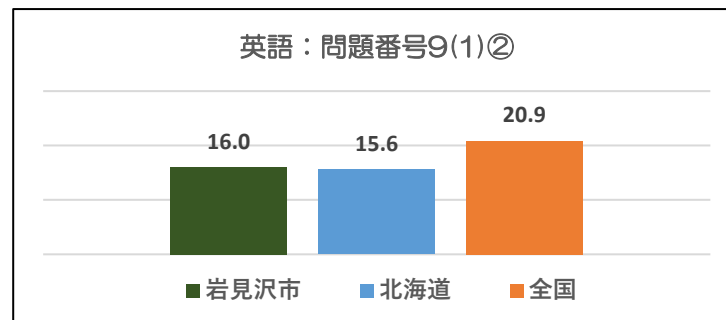
問題番号9(1)②

| | |
|-------|---|
| 問題の概要 | 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる |
| 出題の趣旨 | 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる |

| 岩見沢市 | 北海道 | 全国 | 差 |
|------|------|------|------|
| 16.0 | 15.6 | 20.9 | -4.9 |

(課題)

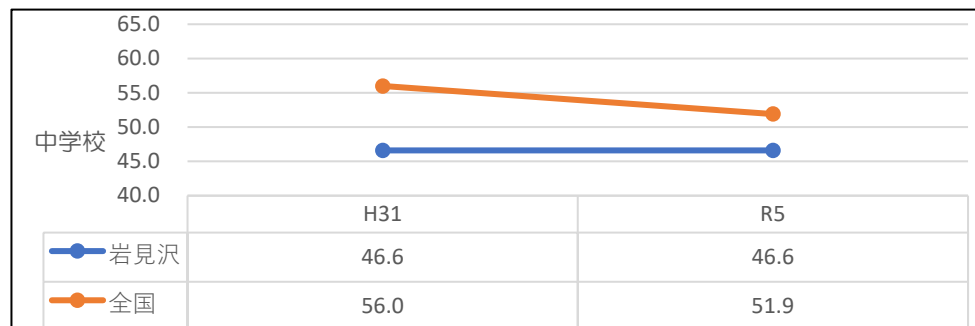
会話の流れから疑問詞whereを用いて一般動詞の疑問文を書くことは理解しているが、現在形になっているなど、時制を正しく判断することができていないか、didが欠落しているなど基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことに課題があると考えられる。



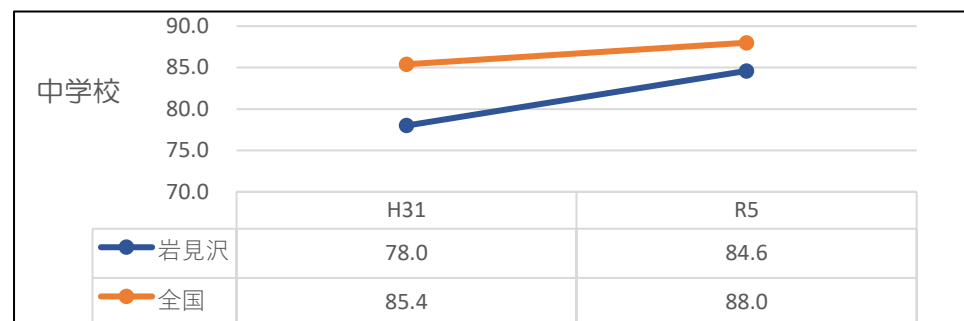
(4) 中学校英語 生徒質問紙調査

- 中学校英語については、4年に一度の実施なので、前回はH31年度であり、前回との比較で状況を分析した。
- 岩見沢市の生徒は、前回は全ての項目で全国を大きく下回っていた。今回も全国平均を上回ることができなかったが、多くの項目で差が縮まった。
- (59)「英語の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合は全国は下降したが、岩見沢市は前回と同様であった。
- (60)「英語の勉強は大切だと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合は上昇し、80%を超えた。
- (61)「英語の授業の内容よく分かります」の問いに肯定的に回答している割合は大きく上昇し、全国平均はやや下降していることから、その差は2.1ポイントに縮まった。
- (62)「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合は80%を超えた。

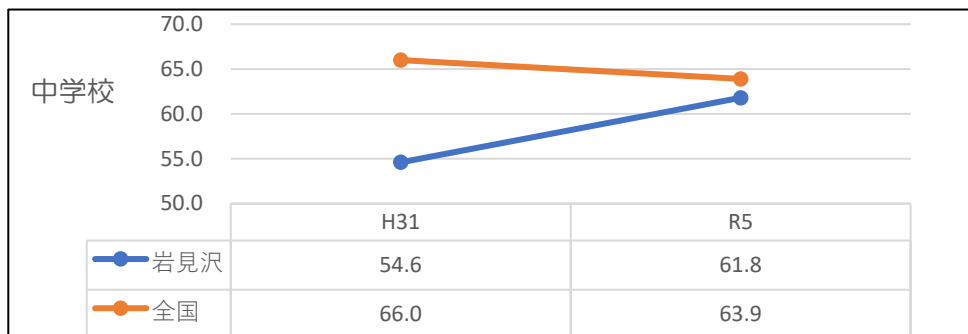
(59) 英語の勉強は好きですか



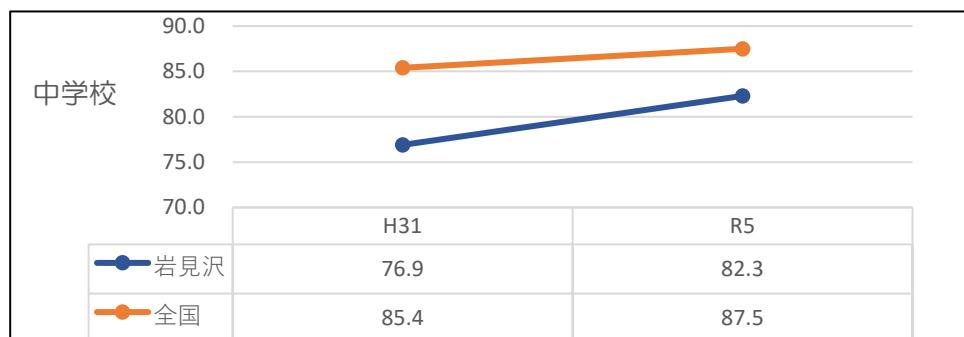
(60) 英語の勉強は大切だと思いますか



(61) 英語の授業の内容はよく分かりますか



(62) 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

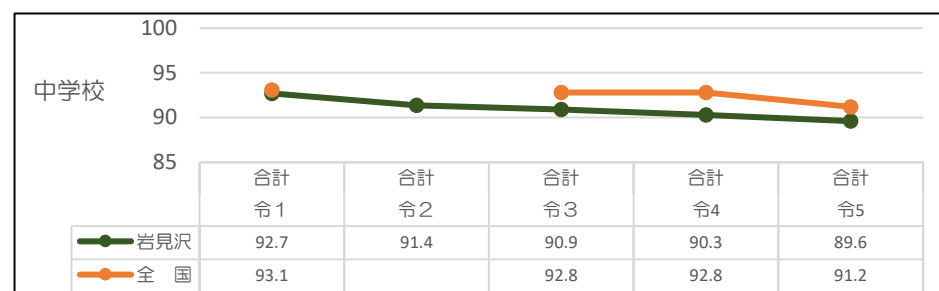
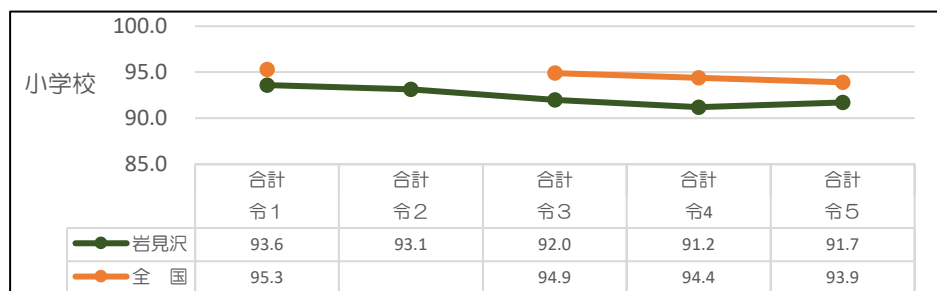


IV 児童生徒質問紙

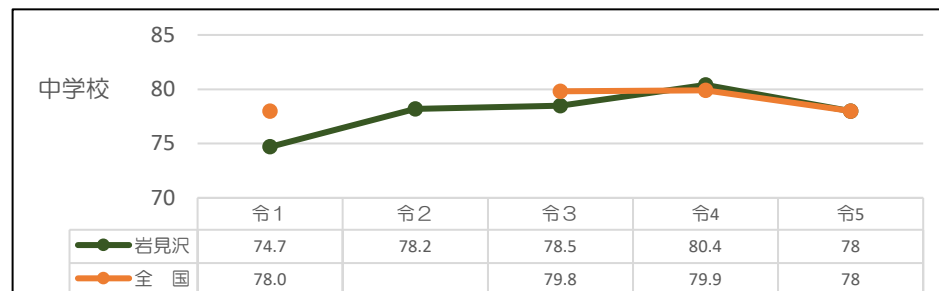
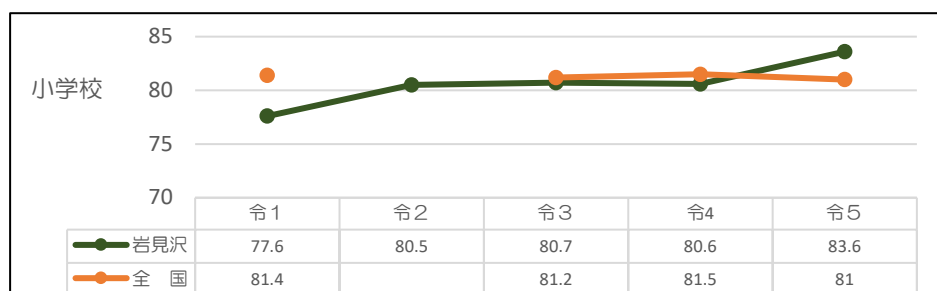
1 基本的生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は2.2ポイント、中学校は1.6ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると小学校はやや上昇し、中学校はほぼ横ばいである。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は2.6ポイント上回り、中学校は全国と同様である。5年間の経年変化で見ると小学校は改善傾向にあり、中学校は昨年度まで上昇していたが、今年度はやや下降した。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は2.6ポイント上回り、中学校は1.0ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇に転じ、中学校はやや下降傾向にある。

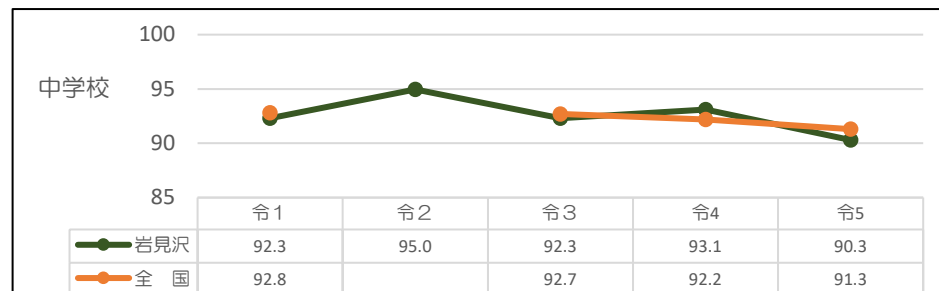
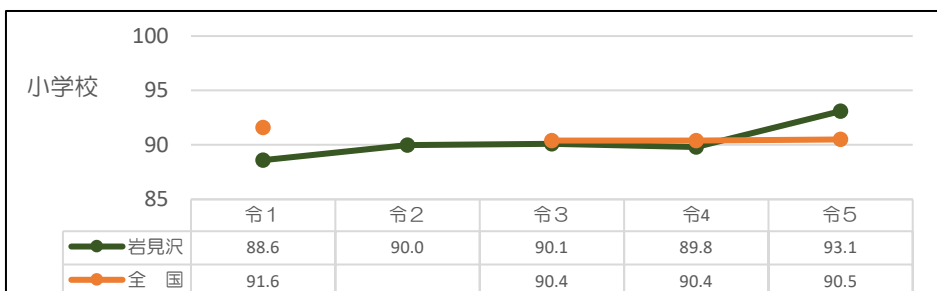
(1) 朝食を毎日食べていますか。



(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



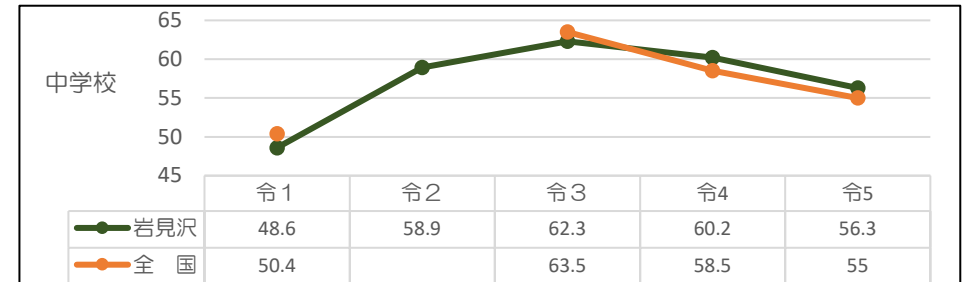
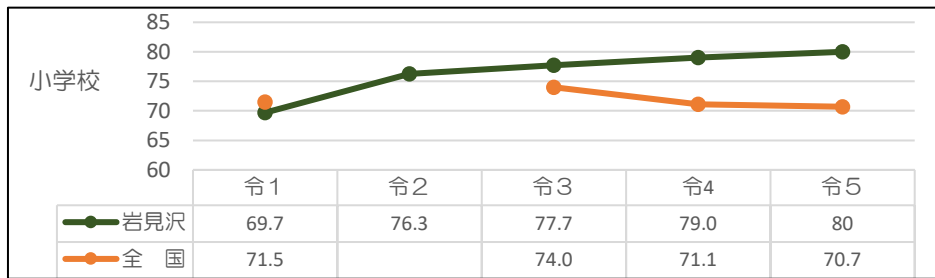
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



2 家庭学習

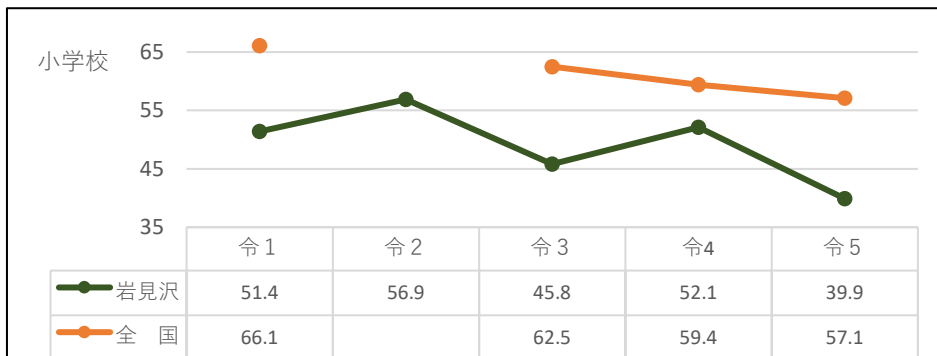
(16)「毎日、自分で計画を立てて家庭学習していますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は9.3ポイント、中学校は1.3ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向、中学校はやや下降傾向にある。(17)「普段、家庭学習を行っている時間」で、小学校1時間以上、中学校2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校は17.2ポイント、中学校は12.7ポイント下回っており、昨年度より全国との差は広がっている。5年間の経年変化で見ると小学校は下降傾向にあり、中学校は令和3年度を境に低下傾向に転じている。

(16) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

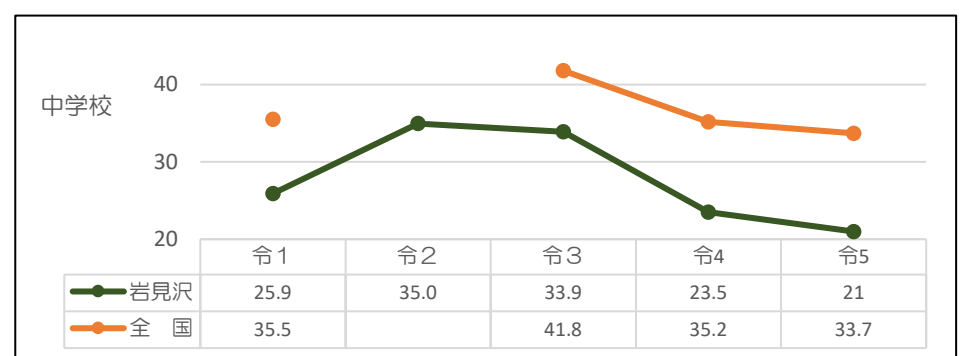


(17) 学校の勉強以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）。

※1時間以上勉強している割合



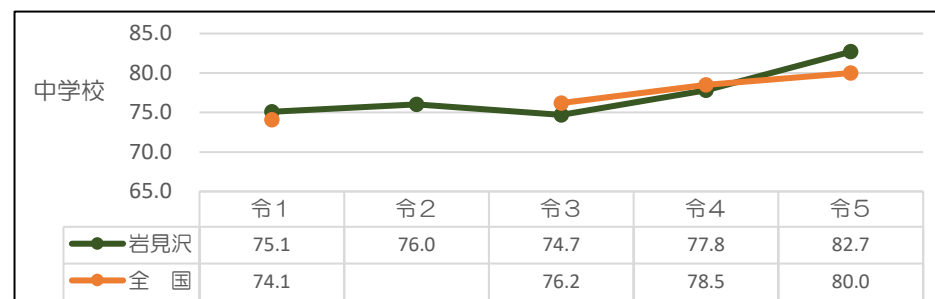
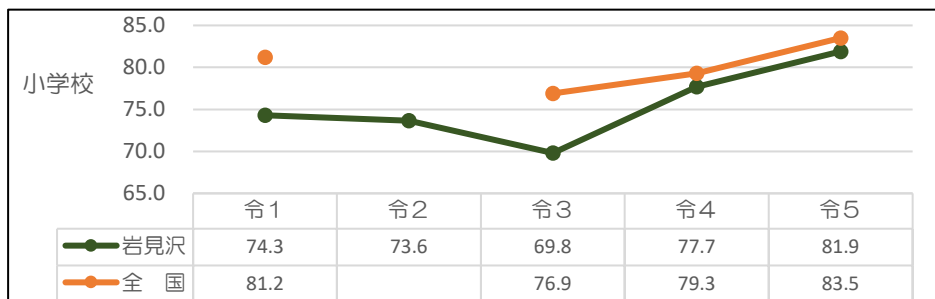
※2時間以上勉強している割合



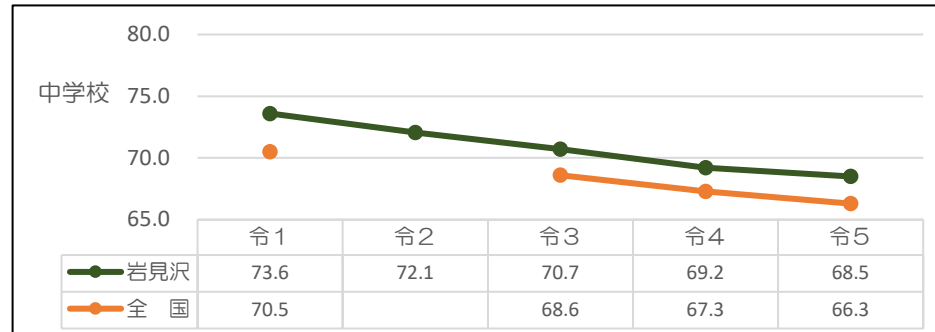
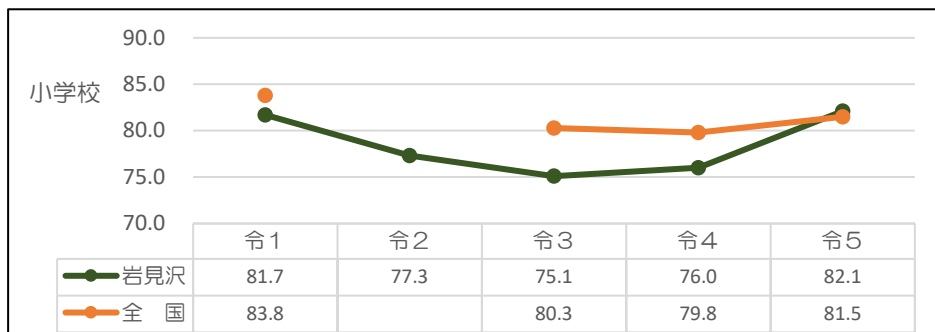
3 児童生徒の自己有用感に関する状況

「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は1.6ポイント下回り、中学校は2.7ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は令和3年度まで下降していたが、その後上昇傾向に転じ、中学校は横ばいから上昇傾向に転じた。「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.6ポイント上回り、中学校は2.2ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向に転じ、中学校は下降傾向が続いている。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.9ポイント上回り、中学校は1.5ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると小学校はやや上昇傾向に転じ、中学校はやや下降傾向にある。

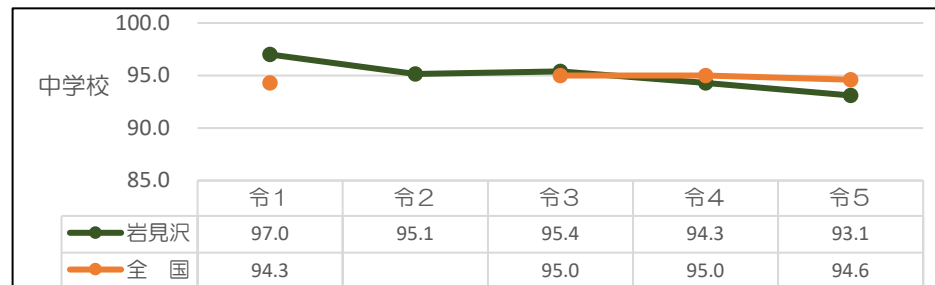
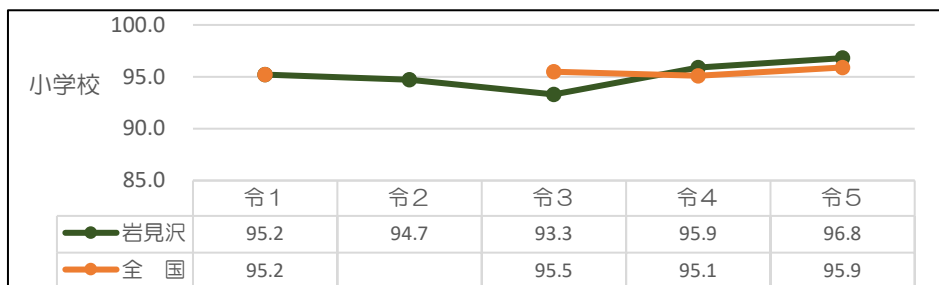
(4) 自分には、よいところがあると思いますか。



(7) 将来の夢や目標を持っていますか。



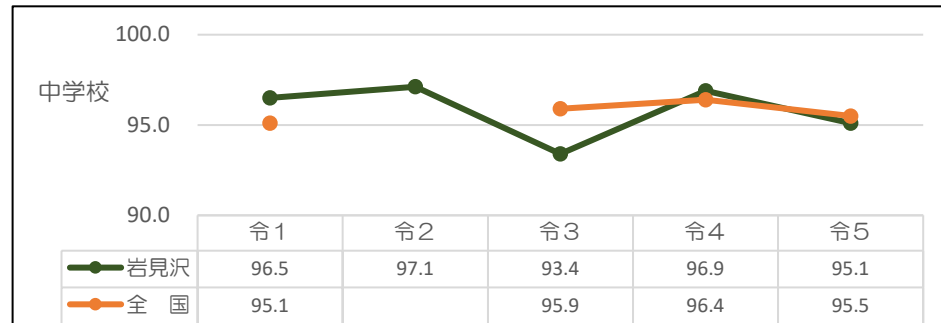
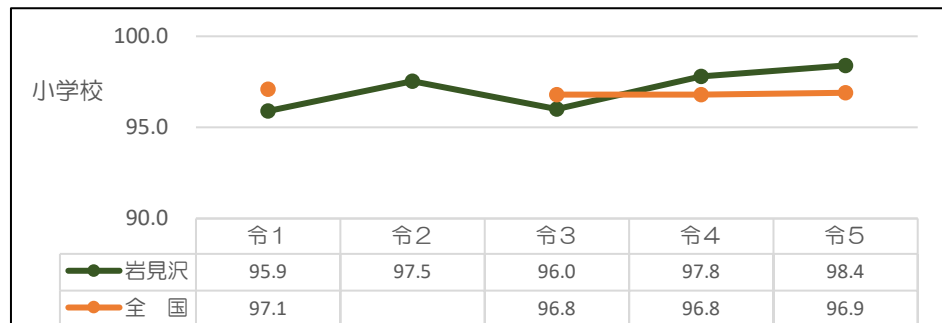
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



4 児童生徒の規範意識に関する状況

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は1.5ポイント上回り、中学校は0.4ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると小学校はやや上昇傾向にあり、中学校は令和2年度から上昇と下降を繰り返している。

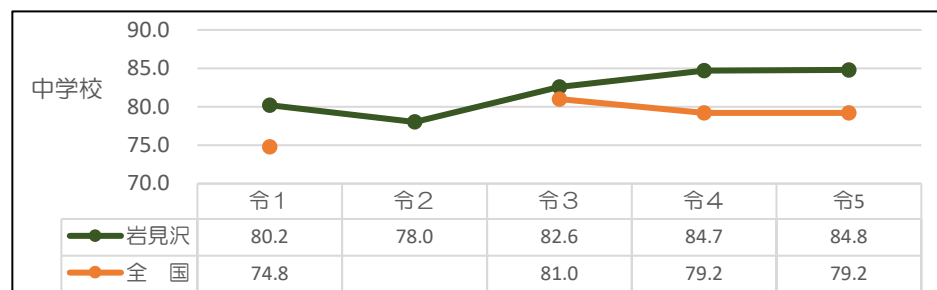
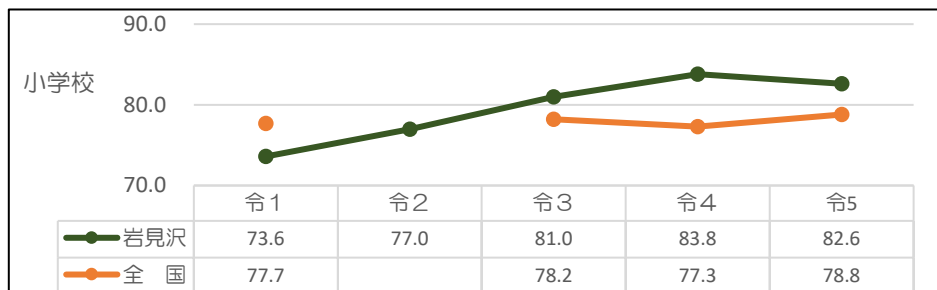
(9)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



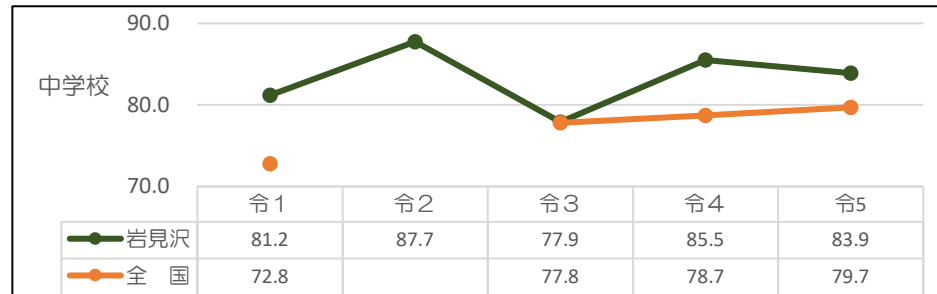
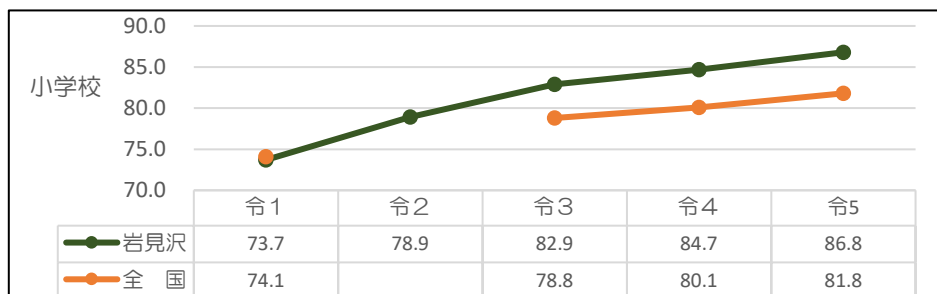
5 主体的・対話的な学び

「5年生まで（中1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は3.8ポイント、中学校は5.6ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小・中学校ともに上昇傾向にある。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は5.0ポイント、中学校は4.2ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向、中学校は令和3年度に下降したが上昇に転じた。学校質問紙「調査対象学年の児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は3.9ポイント、中学校は12.0ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は下降し、中学校は肯定的な回答がほぼ100%である。

小（33）中（37）5年生まで（中1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

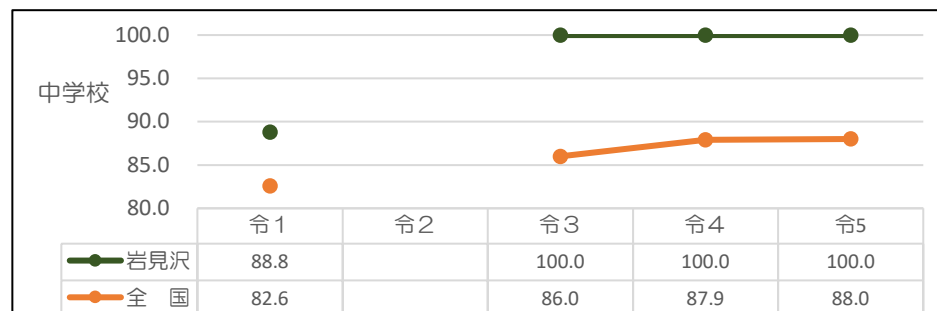
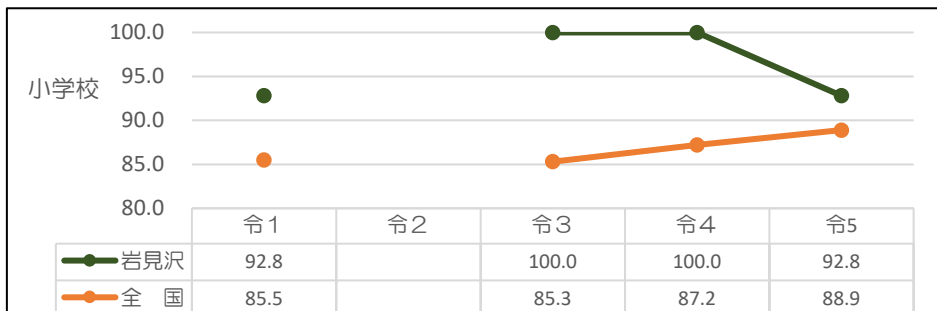


小（36）中（40）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



【学校質問紙】

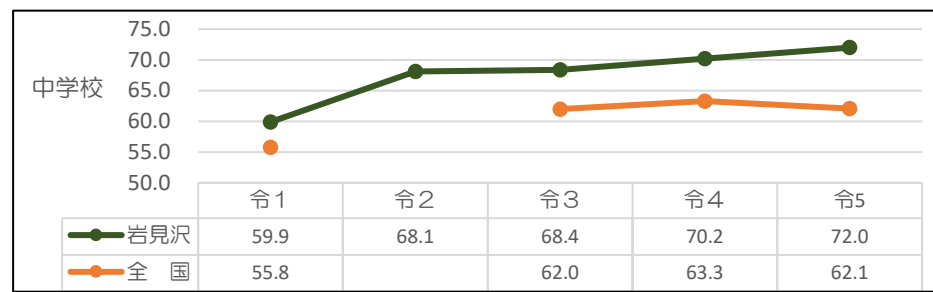
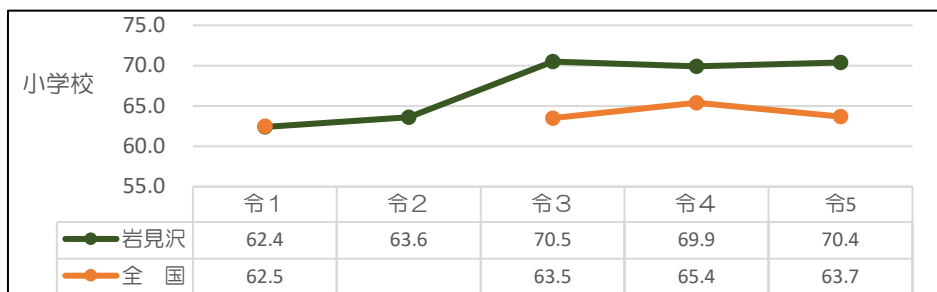
(26) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



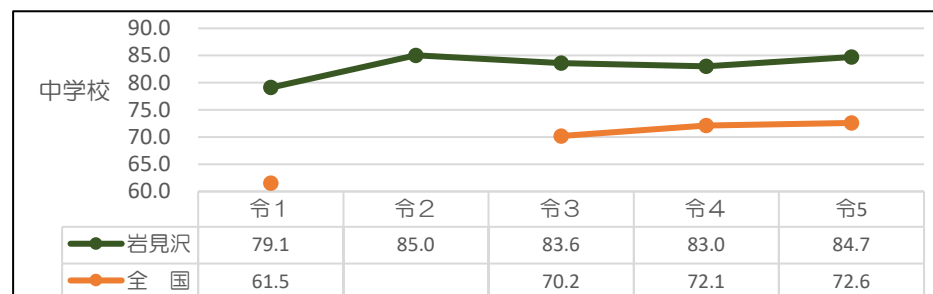
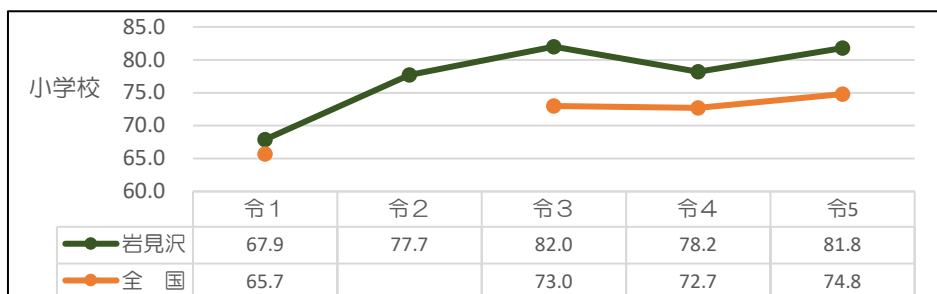
6 これまでに受けた授業内容（総合・道徳含む）

- 「5年生まで（中1・2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は6.7ポイント、中学校は9.9ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小・中学校ともに上昇傾向にある。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は7.0ポイント、中学校は12.1ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向にあり、中学校は横ばい傾向にある。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は6.8ポイント、中学校は3.8ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向にあり、中学校はやや下降した。

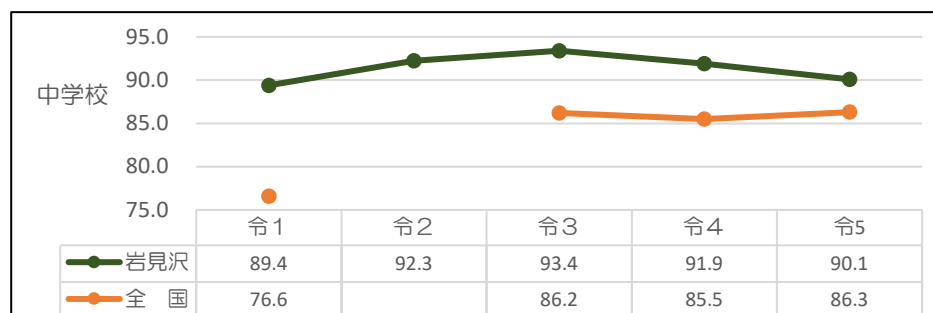
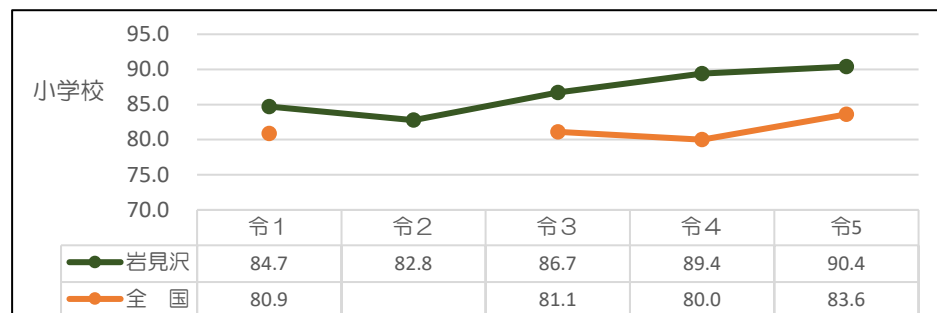
(32)(36)5年生まで（中1，2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか



(39)(43)総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



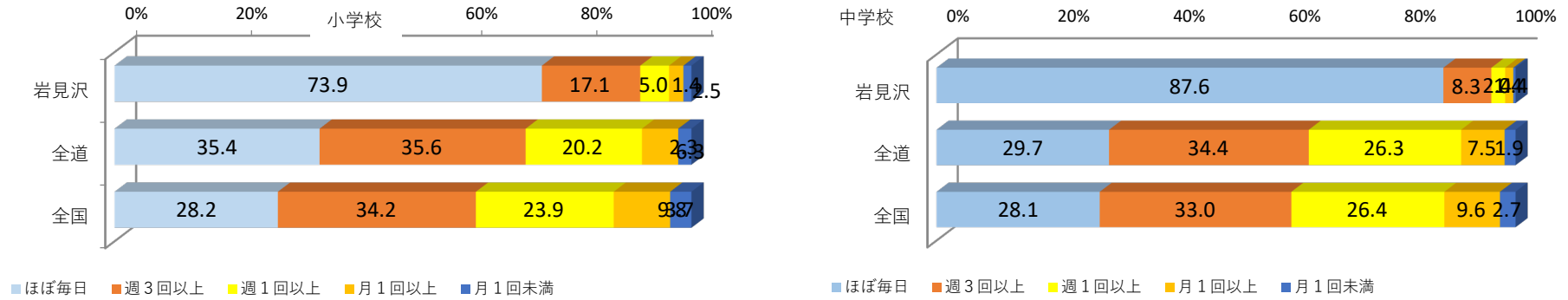
(42)(46)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



7 ICTに関連した児童生徒質問紙の状況

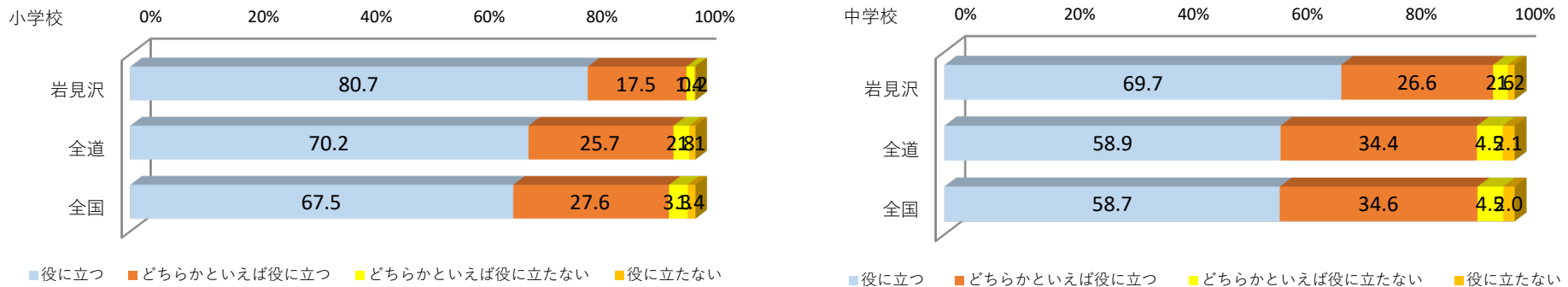
(29)(33)5年生(中1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

「1ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校で45.7(昨年度比+11.3)ポイント、中学校で59.5(昨年度比+7.4)ポイント高い。



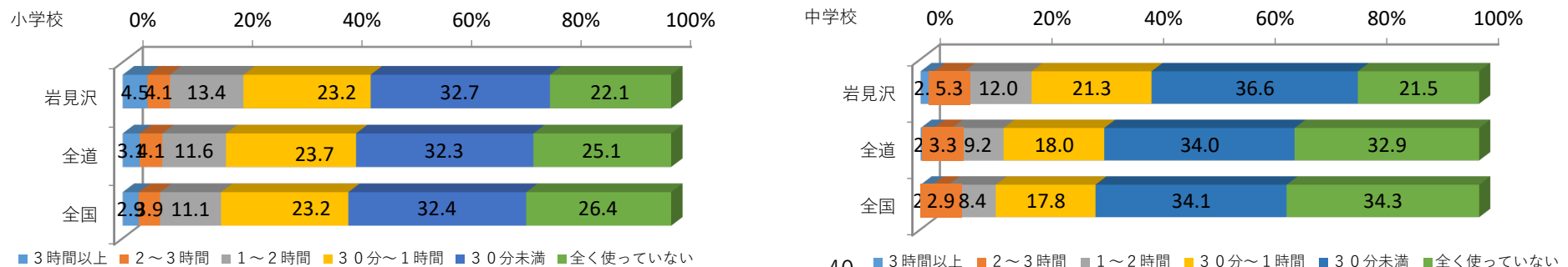
(30)(34)学校の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

「1役に立つ」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校で13.2(昨年度比+10.4)ポイント、中学校で11.0(昨年度比-0.5)ポイント高い。



(31)(35)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

「1時間以上使っている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校で4.1ポイント、中学校で6.3ポイント高い。



VI 調査結果を踏まえた各学校が取り組むべき岩見沢市の6つの方策

1 求められる資質・能力の獲得に向けた「子どもと創る授業」の実現

これからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせるための質の高い授業への改革を全市を挙げて、組織的・計画的・継続的に徹底して取り組まなければならない。

① 「子どもと創る授業」の実現と「子どもの学びの姿の検証」による授業改革の推進

- ・学習者主体の授業となるよう、子ども自ら課題や見通しを立て、個人やグループで探究する学習活動を充実する。
- ・単元の指導内容を明確にし、子ども主体の学習を通して目標を達成する。
- ・教師は指導内容を確実に指導できる力(教材分析力も含む)を身に付けるとともに、子どもが主体的に「学習内容」を学び取ることができるよう、ファシリテート力を磨く。
- ・子ども自身が自分の思考や本時の学びを客観的に把握し、認識する(いわゆる「メタ認知」を含む)ための、「振り返り」を確実にを行い、次時につなげる。

② 学習の基盤となる資質・能力(いわゆる学ぶためのスキルやモラル)の育成・向上

- ・言語能力(いわゆる「読む力、書く力、聞く力、話す(対話する)力」など)を各学年で「どの程度」まで育成するかを明確にした教育課程を編成し、確実に実施する。また、子どもはもとより、保護者にも示す。
- ・問題発見・解決能力(見通す力、情報を整理・比較する力、振り返り次につなげる力等)や情報活用能力を系統的に育成し、授業で子どもに体感させる。
- ・人の話を聞く、話す相手を見るなど学級全体が安心して学べるためのモラルを醸成する。

③ タブレット型端末を有効に活用した探究学習の推進、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場の明確な位置付け

- ・タブレットを活用し、学級全体の学習状況を把握したり、個別学習とペア・グループ等で行う学習を効果的に行う。

④ 学びを支える親和的な学級づくりのための「ピア・サポート」(傾聴・受容・共感)の計画的な実施

⑤ 学びに向かうための教室環境の整備と特別支援教育の充実(ユニバーサルデザイン、特別な配慮など)

2 子どもの学習意欲や目的意識を高める組織体制の整備と全校での取組

各学校においては、学習意欲が高く、目的意識を持って主体的に学習に取り組む児童生徒を育成するため、各種検査やテストの結果を分析し、授業改革とその検証を行うとともに、これまでの取組や組織体制を見直すなど、全校を挙げて学力向上に取り組まなければならない。

① 全国学力・学習状況調査の結果に基づく教育課程の改善

- ・全国と比べ、不十分だった領域や単元については、授業の配当時数を増やしたり、指導過程を見直し、体験を伴う活動や観察・実験、グループによる話し合いなどの時間を充実させたりするなどの工夫・改善を行う。

② 子どもの学びの姿に基づく評価による指導方法の改善

- ・ビデオや授業記録を基に授業を子どもの側からの視点で分析し、課題を明らかにするとともに、今後、学校全体で取り組まなければならないことを明確にする。
- ・「知識・技能」や「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、単元テストをはじめ、毎時間のICTを活用した授業評価などにより適切に評価するとともに、各観点の評価結果から指導方法に課題がなかったかどうかを検証し、授業改善に生かす。

③ 全国学力等調査結果の誤答類型に基づく個々の学習内容の分析と指導体制の整備

- ・誤答類型やSP表の分析を通して、子ども一人一人の課題を把握し、個別最適な学びを保証する指導が進められる指導体制を整備する。また、評価5の子どもの割合が少ない学校にあっては、進度や扱う問題の再考を行う。

④ 多様な人材の活用や地域との連携、スキマ時間の活用や遠隔授業等による多様な学びの機会や場の提供

- ・児童生徒が多くの人々と触れ合い、多様な考えや広い視野から学べるようにするため、学校では授業はもとより、朝・放課後などのスキマ時間や長期休業中などに、外部の多様な人材や高校生・大学生などの協力を得たり、他の学校・地域などリモートで結んでの授業を展開するなど多様な学びの機会や場を数多く提供する。

⑤ 次の授業につながる授業の構築と授業内容を深め・広げるための家庭学習の充実

- ・授業の「振り返り」で、子どもたちが、「もっと知りたい。次はこれに取り組みたい。」という思いが出てくるような授業展開を工夫するとともに、家庭で調べてきたことを授業で生かす場を設定するなど、「授業と授業」、「授業と家庭学習」を連動させる。

3 小・中連携(コミュニティ・エリア)による9年間を通じた学力向上の実効性のある取組の推進

子どもたちに確かな学力を身に付けさせるためには、岩見沢市が推進する「コミュニティ・エリア」を効果的に活用し、保護者や地域住民にも学校の取組や子どもたちの学力の状況を理解していただきながら、地域の協力を得て、小・中学校が一体となって義務教育9年間を通じた一貫した指導に取り組まなければならない。

- ① 標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流(特に誤答類型)と指導方法や内容の具体的な改善
 - ・自校の各種学力検査の結果を公表するとともに、特徴や課題などを明らかにし、学校運営協議会で説明する。
 - ・小中合同研修などで交流し、小・中共通で改善すべき点や重点的に指導すべき点を明らかにする。
- ② 各学年修了時の学習状況の把握による9年間の個別最適な学びの保障
 - ・各学年修了時に学習の習得状況を把握し、記録化して次の学年に確実に引き継ぐ。
 - ・次の学年では一人一人の履修状況に基づく個別最適な学習を保障する。
 - ・特に、小学校卒業時や中学校3年時の学力については全国学力等調査の結果を活用し、全国と比較しながら6年間及び9年間の学びの検証を行い、その結果責任を明確にするとともに、指導の改善につなげる。
- ③ 小・中学校での「めざす子ども像」の共有と、授業スタイルの統一化や授業の相互乗り入れなど、学力向上のための教職員の意識の共有化と9年間の統一した取組の実施
 - ・9年間を通して子ども主体の学習が進められるよう、小・中学校で授業スタイルを統一し、学校種が変わっても同じ指導過程やスタイルで授業を行う。
 - ・小・中学校双方の教員が乗り入れ授業を行い、小・中学校における指導のよい面や子どもの実態を体感し、指導に生かす。

4 子どもの自尊感情・自己有用感・達成感・規範意識等を育む取組の推進

子どもたちの学力を高めるためには、子どもたちが自分のよいところを見付け、自信をもって学校生活を送ることができるようにすることが大切である。また、子どもたちが世の中に出た時、「役に立つ人間になりたい」と思えるような教育を行う必要がある。そのため、学校生活においては、自己有用感や規範意識を高める学習活動や体験を設定し、子どもたちの「学びに向かう力」を高めることが重要である。

① 望ましい学級づくりと、成功体験の積み重ねを通じた自尊感情や自己有用感を高める工夫

- ・子どもたちが安心して自己を解放できる学級集団を学年の教師と子どもたちと一緒に作りあげるとともに、子ども一人一人の個性を十分把握し、学校生活の中で成功体験を数多く経験させることで自尊感情等を高める。

② 授業や学校行事等で、児童生徒に自信をもたせたり、達成感を味わわせたり、自分のよさに気付かせたりする活動の意図的・計画的な推進

- ・授業の中で「自分の力で理解できた」と思わせたり、学校行事等で一人一人の子どもたちに適した役割を分担させたりして、「自分が役割を果たすことにより成功した」と思えるような取組を意図的・計画的に行い、自信や達成感を味わわせる。また、行事等のまとめでは、子ども同士で褒め合う場面を設定し、自分のよさに気付かせる。

③ 子どもが自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができる「道徳」の授業の充実

- ・教科道徳の授業の充実を図り、教材を通して子どもが自己を見つめ、自己の生き方について、友達の考えを聞きながら、深め、広げていけるようにする。

④ 子どもの声に耳を傾け、子どもを深く理解し、子どもを見守り、寄り添う全教職員による組織的な生徒指導の充実

- ・生徒指導の基本は「子ども理解」であることを全教職員で確認し、全ての子どもを全教職員で見守り、寄り添うきめ細やかな生徒指導の充実を図る。

⑤ 「hyper-QU よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」の分析結果を活用した生徒指導部による実態把握と個別面談等の実施

⑥ 「ピア・サポート」による親和的な学級集団の育成

5 子どもの基本的生活習慣の確立

学力向上を図るための基盤は「子どもたちの規則正しい生活習慣」であり、その確立には家庭や地域社会の理解と協力がなければ成立しない。そのため、学校では、「子どもの基本的生活習慣の確立を図ることの必要性」を家庭や地域に語りかけ、家庭の理解と協力を得る取組を進めなければならない。

- ① 各中学校区(コミュニティ・エリア)では、学校運営協議会などで、校区の子どもたちの現状を説明し、地域・PTAが力を合わせて「家庭での5つの約束」を推進するなど、実効性のある取組により子どもたちの望ましい生活習慣の確立を図る。

〈家庭での5つの約束〉

ア 早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身に付けよう

イ 次の日の学習準備をしよう

ウ 家庭学習を毎日しよう

・帰宅後の学習習慣を身に付ける ・宿題、予習、復習をする

エ 読書に親しもう

オ 家族との会話を大切にしよう

6 家庭や地域の教育力の更なる向上

全国と比べ、「平日の家庭学習の時間が少ない子ども」や、「テレビゲームやスマートフォンの使用時間が長い子ども」の割合が高いことから、家庭や地域の理解を得ながら、子どもたちの生活習慣に関する課題に対応する必要がある。

- ① 家庭における基本的な生活習慣の確立及び予習や自学などの学習習慣の確立を促すための学校からの啓発と家庭への強力なサポートの実施
 - ・全国学力・学習状況調査の結果や、自校独自で行うアンケート調査などの結果のうち、「家庭生活・家庭学習」に関する事項については、家庭や地域住民に数値を含めて分かりやすく伝え、課題を明確にするとともに、家庭や地域の協力が得られるよう、学校と一緒に改善に取り組んでもらえるような姿勢で臨む。
- ② 地域子ども会をはじめ、関係機関、PTA等と連携・協働し、子どもたちが地域行事や社会参加へ関心が高まるよう後押しするとともに、学校における生徒会・児童会活動やPTA行事などとの連動を図った取組を実施
 - ・町内会やPTA等と連携しながら地域行事の日程を学校で把握し、開催案内を掲示するなど子どもへの啓発を行うとともに、地域行事に出やすい配慮(部活動時間や学校行事、テストの日程など)を行い、子どもたちが積極的に参加できるように配慮する。
 - ・生徒(児童)会の活動に保護者や地域住民が参加し、子どもも含めて地域の住民であるという意識を高める取組を検討する。また、学校運営協議会を活用し、生徒会活動等と地域行事などとのコラボを検討する。